



うみやまかわ新聞



うみやまかわ新聞は

日本をつなぐ「海」「山」「川」を

キーワードにした新聞です

全国の小学生が

それぞれの地域を取材しました

さまざまなうみ・やま・かわと

身近なうみ・やま・かわを比べ

広い海に浮かぶ島国の恵みや

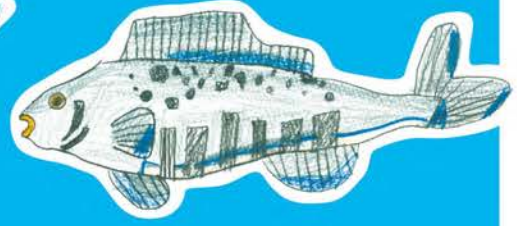
同じ日本にある地域の

「つながり」や「ちがい」を

感じてください



UMI
YAMA
KAWA



2016年度

私たちがつくりました!

2016年度版のうみやまかわ新聞では全国14地域(小学校:11校/地域:3地域)の小学生たちが新聞づくりにチャレンジしました。

サポート:先生、地域コーディネーター、各地域の皆様

北海道札幌市 北見道利尻島 若葉 滝沢雪乃(たきざわ・ゆきの) 加藤美優(かとう・みゆ) 今堀実奈(いまほり・まな) 赤坂志帆美(あかさか・しほみ) 志摩泰太(しま・たまた) 西垣心晴(にしがき・こは) 遠藤純太(えんどう・じゅんた) 菅原秀人(すがわら・しゅうと) 安彦海蘭(あひこ・みらん) 榊ひより(さかき・ひより) 山本陽太(やまもと・ようた) 長谷川志音(はせがわ・しおん) 滝沢咲乃(たきざわ・さきの) 濱口夏恋(はまぐち・かれん) 濱口空(はまぐち・そら) 常磐井美優(ときわい・みゆ) 佐々木環菜(ささき・かんな) 【地域コーディネーター】 高橋哲也(たかはし・てつや) 【サポート】 関根智敏(せきね・ちとし)

千葉県いすみ市 いすみ市立太東小学校 森珠青(もり・たまき) 柴高梨穂(しばみや・りほ) 吉田絵理(よしだ・えり) 渡辺羅生(わたなべ・らい) 吉田晃生(よしだ・こうせい) 市成可尚(いちなり・よしなお) 細谷源介(ほそや・りょうすけ) 吉田瑚々奈(よしだ・ここな) 秋葉亜衣(あきは・あい) 藤平莉奈(ふじひら・りな) 白川道成(しらかわ・とうい) 青木洗人(あおき・ひろと) 小保内玄(おほない・げん) 川名雷人(かわな・らいと) 石井怜(いししい・れい) 内田菜花(うちだ・なはな) 大串萌花(おおくし・もか) 半田海翔(はんだ・かいと) 久我駿介(くが・しゅんすけ) 渡邊孔明(わたなべ・こうめい) 関栗衣夢(せき・らいむ)

東京都江戸川区 江戸川区立二之江第三小学校 【6年1組】 河村勇史(かわむら・ゆうり) 中里晟也(なかざと・せいや) 前野大和(まへの・やまと) 関口幸輝(せきぐち・こうき) 田中翔太(たなか・りょうた) 植田亮介(うえだ・りょうすけ) 田中強太(たなか・きょうた) 桶谷沙良(おけたに・さら) 榊菜美(さかき・なみ) 木村豪志(きむら・たけし) 原口伊織(はらぐち・いおり) 松尾春斗(まつお・はると) 本田汐里(ほんだ・しほり) 中島怜花(なかしま・れいか) 三上真歩(みかみ・まほ) 井野宮芽依(いのみや・めい) 飯塚洗太(いづつか・こうた) 内海優真(うちうみ・ゆうま) 藤澤彩香(ふじさわ・さやか) 加藤優弥(かとう・ゆうや) 鈴木空我(すずき・てんが) 岡村隼奈(おかむら・ひな) 今井美穂(いまい・みほ) 【先生】 山寺大介(やまでら・だいすけ) 【地域コーディネーター】 宮嶋隆行(みやじま・たかゆき)

滋賀県近江八幡市沖島 近江八幡市立沖島小学校 小多唯香(ほんだ・ゆい) 谷口利麻(たにくち・りま) 小林生歩(こばやし・いぶ) 小川心孝(こがやま・きよたか) 小川瑞仁(おがわり・ゆうと) 高居姫来(たかい・きり) 豊原光里(とよはら・ひかり) 谷口幸泉(たにくち・こうせん) 【先生】 福嶋正思(ふくしま・ただし) 藤原稔和(ふじわら・としかず) 【地域コーディネーター】 富田雅美(とみた・まさみ) 岡山県真庭市 真庭市立落合小学校 梶原統真(かじはら・とうま) 大西晴嘉(おおにし・はるよし) 妹尾和磨(せのお・かずま) 井手童葉(いで・わかば) 米山萌(よねやま・もち) 古堤心(ふるつみ・こころ) 渡邊舞大(わたなべ・しゅんた) 近賀杏奈(さだか・あんな) 松永知子(まつなが・ちこ) 大倉拓真(おくら・たくま) 牧野陽(まきの・あひび) 松下愛陽(まつした・あいび) 屋敷千帆(やしき・ちはや) 先原有紀(さきはら・ゆうき) 橋本理紗(はしもと・りさ) 西田圭佑(にしだ・けいすけ) 村岡真樹(むらおか・まさき) 岡崎侑奈(むらおか・ゆきな) 立石晃誠(たていし・こうせい) 森谷真海(もりや・まほ) 森原花(さきはら・れい) 網島夕奈(あみづな・ゆな)

宮崎県上島町 上島町立弓削小学校 山本悠二(やまもと・ゆうじ) 佐伯拓哉(さいぎ・たくや) 榎垣花歩(ひがき・かほ) 宮畑紗稀(みやはた・さき) 榎垣隆斗(ひがき・りゅうと) 田房優人(たぼう・ゆうと) 池本めい(いけもと・めい) 宗近ひと(むねちか・ひと) 林田大樹(はやしだ・ひろき) 中林健人(なかばやし・けんと) 加藤健人(かとう・けんと) 中根綾花(なかね・あやか) 中西裕斗(なかにし・ひろと) 加登登衣(かとう・ゆい) 田中瑛哉(たなか・りゅうや) 岩越大空(いわしほ・こし・そら) 竹林環(たけばやし・たまき) 川村千愛海(かわむら・ちえみ) 竹林美雨(たけばやし・みゆ) 藤原壮(ふじわら・そういち) 中村理玖(なかもら・りく) 阿部響輝(あべ・ひびき) 【先生】 芝田敬三(しばた・けいぞう) 【地域コーディネーター】 藤巻光加(ふしまき・みつか) 高知県佐川町 佐川町立尾川小中学校 飯嶋千央(いひま・ちひろ) 片岡渚(かたがき・なぎさ) 安田透流(やすだ・とるる)

西森白(にしもり・はく) 高橋采実(たかはし・まほ) 齋藤俊(さいとう・しゅん) 片岡緑(かたがき・みどり) 岡本奈々果(おかもと・なな) 西森智香(にしもり・ともか) 野中勇杜(のなか・ゆうと) 氏原拓海(うじはら・たくみ) 中村心優(なかもら・みひろ) 【先生】 橋村宏美(はしもら・ひろみ) 大西正彦(おおにし・まさひこ) 松本敏子(まつもと・としこ) 【地域コーディネーター】 川合里奈(かわい・りな) 長崎県対馬市 対馬市立豊小学校 阿比留結(あひる・ゆい) 宮原風鈴(みやはら・すず) 高石悠太(たかいし・ゆうた) 大東晋一(おおいづか・のの) 山崎翔(やまさき・しょう) 佐名来翔(さな・くるみ) 新川紗雪(しんかわ・さゆき) 武末舞亜(たけすえ・まいあ) 【先生】 畑島英史(はたしま・ひでふみ) 【地域コーディネーター】 細井尚美(ほそい・なおみ)

大分県日田市 日田市立津江小中学校 高倉颯汰(たかくら・はやた) 眞田琴音(まんだ・ことね) 伊東資泰(いとう・よしひろ) 森紫虎(もり・しこう) 石川慧(いしかわ・あきら) 古閑太(こがわ・たいし) 岡本隆隆(おかもと・りゅうりき) 麻生晃星(あそう・こうせい) 千原優星(ちはら・ゆうせい) 飯沼藤緒(いひぬま・ふじお) 【先生】 松尾正徳(まつお・まさのり) 【地域コーディネーター】 河井昌猛(かわい・まさたか) 鹿児島県鹿儿島市 鹿儿島市立金岳小学校 武石真鈴(たけいし・ましろ) 河村奏(かわむら・かなで) 貴船桃(きぶね・もも) 貴船桃(きぶね・もも) 【先生】 高橋誠(たかはし・まこと) 深川日奈乃(ふかがわ・ひなの) 【地域コーディネーター】 貴船桃子(きぶね・きょうこ) 鹿児島県和泊町 和泊町立大城小学校 山田裕介(やまだ・ゆうすけ) 前田菜奈(まえだ・なな) 鈴木豊岳(すずき・ひなたか) 皆吉陽太(みなよし・ひなた) 山田奈々華(やまだ・なな) 市来豊大(いちき・はると) 松下直飛(まつした・なおと) 清水海斗(しみず・かいと) 【先生】 川野慎一(かわの・しんいちろう) 【地域コーディネーター】 古村英次郎(ふるむら・えいじろう)

うみやまかわ新聞

私たちが暮らす日本は

広い海とたくさん島の島でできていて

一つひとつの地域に特徴的な自然や歴史、文化があります

『うみやまかわ新聞』は新聞づくりを通して

海と島でできた日本を学ぶプロジェクトです

2016年度は北海道から沖縄まで、

全国14地域に暮らす小学生たちが

「うみ」「やま」「かわ」を軸に地域取材し

それぞれの魅力を伝える新聞づくりに挑戦しました

完成した新聞を広げてイメージしてみよう

この島国にはどんな恵みがあり、つながりがあるのか

各地の「うみ」「やま」「かわ」には

まだ知らない、たくさん魅力が詰まっています

【木曾町／長野県】 うみやまかわ新聞編集部木曾町支局



長野県西部に位置する木曾町は、2005年(平成17年)の合併から12年になります。県内の町村では最も広い面積で、木曾川や渓流の流れと共に育まれてきた地域です。有志の小学生4名で取り組んだ新聞には、未来の木曾の子ども達につなぎ、守り続けてほしい町の宝物が詰め込まれています。

地域コーディネーター：郡竹聖耶(つづく・あや)

未来の子ども達に伝え、守り続けてほしいという願いを込めて作った新聞は、その体験も含めて、かけがえのない宝物。暑い日も寒い日もよくがんばりました。

地域コーディネーター：榎本浩実(えのもと・ひろみ)

新聞作りの時に積極的に意見を出してくれて、とても嬉しかったです。木曾の魅力がいっぱ詰まった素敵な新聞ができあがりましたね。お疲れ様でした!

【いすみ市／千葉県】 いすみ市立太東小学校



千葉県いすみ市は房総半島の太平洋側にあります。海が近く、東京オリンピックでサーフィンの開催地となっています。6年生は35名で、明るく元気に生活しています。新聞を読んで、いすみ市の魅力を皆さんに知ってもらえたらうれしいです。

地域コーディネーター：磯木淳実(いそき・あつひろ)

読んでいたかと思ういつの間にか原稿を書き終えていて、しかも上手で驚かされました。取材の時のおおじいさん姿勢と集中力にも感心しました。さらなる成長が楽しみです。1年間お疲れ様でした。ありがとう。また近所で会いましょう。

【利尻島／北海道】 利尻町青少年リーダーの会「若葉」



利尻島は、アイヌ語で「リシシリ」(=高い山のある島)に由来しており、利尻富士と呼ばれる秀麗な利尻山(標高1,721m)が中央にそびえています。うみやまかわ新聞の活動は、利尻町青少年リーダーの会の小学校6年生を中心に17名で取り組みました。

地域コーディネーター：高橋哲也(たかはし・てつや)

1年間、6年生が下級生を取りまとめながら、長い時間には1日6時間以上、新聞に関する学習や取材を行いながら「うみやまかわ新聞」を作成してきました。大変だったと思いますが、新しい利尻の発見と御土愛を深めることができました。

【北杜市／山梨県】 うみやまかわ新聞編集部北杜市支局



北杜市は東京から車や電車で約2時間、八ヶ岳や南アルプスの麓にある山々に囲まれた地域です。市内の11の小学校から、新聞作りに興味をもった10名(男子2名、女子8名)で取り組み、北杜のフレーズである「山紫水明」のそれぞれに沿って新聞作りを進めました。

地域コーディネーター：藤枝平(しの・てっぺい)

北杜市子ども記者の皆さん、1年間お疲れ様でした!毎月のテレビ授業や、取材、原稿作りに熱心に取り組み、見事な新聞ができあがりました。私も皆さんが取り組む姿勢を見て、驚きや学びを得る事ができました。協力してくださった保護者の皆様、本当にどうもありがとうございました!

【江戸川区／東京都】 江戸川区立二之江第三小学校

6年1組



6年2組



学区域の中心に歴史あふれる新川が流れ、江戸川に隣接した、静かな住宅街という落ち着いた環境の中にあります。一人ひとりの健やかな成長のために「明るく、元気で、さわやかな学校づくり」に取り組んでいます。うみやまかわ新聞作りは6年1組・2組がそれぞれ取り組みました。

地域コーディネーター：宮嶋隆行(みやじま・たかゆき)

<6年1組>1年間ご苦労様でした。取材を通じて、葛西を住みやすい町にするために、様々な人が努力されている事がわかったと思います。また、他の人達にまかせているだけでは住みやまさは守れない事も理解できたと思います。これからは、皆さん自身が町をより良くするよう、がんばってください。

<6年2組>1年間お疲れ様でした。「人に親切にしよう」と言う事は簡単です。ですが、実際に住む人や施設に関わる人に取材する事で、「人に親切である事」がどういう事かがよく理解できたのではないのでしょうか。これからも自分が住む町をより良くするよう、その気持ちを忘れずにいてください。

うみやまかわ新聞

【上島町/愛媛県】 上島町立弓削小学校



弓削小学校は、愛媛県の最北で、広島県境に接する島にあります。校区は、瀬戸内の豊かな漁場と美しい自然という、恵まれた環境の中、児童は素直で純朴に育っています。6年生は、大変明るく元気のあるクラス。目標達成のためにこつこつと努力を積み重ねていく事もでき、チーム一丸で新聞を作成しました。

地域コーディネーター：藤巻光加(ふじまきみつか)
みんながんばりましたね！ありがとうございます。みんなが大人になる頃、上島町の人口はたぶん今よりもずっと少なくなっています。けれど今回学んだように、上島町には守り伝えていきたい事がたくさんあります。知り、書き、伝えたい事、この経験が、みんなと島の未来にとって、光あるものでありますように。

【真庭市/岡山県】 真庭市立落合小学校



真庭市の南部、旭川と備前川の合流点に広がる落合平野に位置している、全校181名の小学校。うみやまかわ新聞では、6年生30名が今ある落合の魅力を発信するのではなく、将来の町がどうすればよくなるかという視点で新聞作りに取り組みました。

地域コーディネーター：西本恭子(にしもときょうこ)
新聞のテーマにある、落合の未来につながり、今の6年生にしか作れない新聞がいに完成しましたね。新聞を作る前より町の事が気になるようになったのではないのでしょうか、新聞をみんなで作った事、みんなの人生の下地には落合が必ずある事を時々思い出してくれたらうれしいなと思います。

【近江八幡市沖島/滋賀県】 近江八幡市立沖島小学校



沖島小学校は、琵琶湖に浮かぶ人口約300人の沖島にあります。全校児童は15名。運動会や遠泳大会、ふなずし作りなどの学習活動は地域の方々の協力なしに進める事はできません。うみやまかわ新聞作りは、3年生以上の9名で取り組みました。

地域コーディネーター：富田雅美(とみたまさみ)
3-6年生で取り組み、中学年は講師の話をしっかり聞き、積極的に質問をし、高学年は上手にまとめ、みんなを引っ張る事ができ、それぞれの役割を果たされました。この授業は沖島の暮らしなどを知らぬ良い機会、沖島在住の私も色々な事を教えてもらい、参加できて良かったです。

【日田市津江地域/大分県】 日田市立津江小学校



上津江町と中津江村を校区としている、山や森林に囲まれた小学校です。6年生10名は、「全力・努力・協力」を学級目標に、お互いの違いや良さも大切にしながら、仲良く過ごしています。日々当たり前のように過ごしているふるさと、今回の取材を通してたくさんの宝物がある事に気付きました。

地域コーディネーター：河井昌猛(かわいまさたか)
駆け足で新聞の作り方を学び、限られた取材時間や原稿作成時間でしたが、しっかりと要点を押さえて記事を仕上げることができたと思います。新聞作りを通して、生まれ育った地域に関心を持ってもらえたと、子ども達の成長を見られた事がとてもうれしかったです。

【対馬市/長崎県】 対馬市立豊小学校



対馬の最北端で、全国でも大陸に最も近い学校です。全校児童は23人で、新聞作りは5・6年生、8名で取り組みました。地域のソウルフードを意味する「とんちゃん」チームと、校歌にも詠われた歴史を物語る「瑞雲」チームに分かれて「韓国との交流」をキーワードにアンケート調査から取り組みました。

地域コーディネーター：細井尚美(ほせいなおみ)
私自身、島外からの移住者のため、表面的に知っていた事も、児童と一緒に調べたり取材を通して深く知る事ができました。8名の児童達は、授業が始まるのはっきりと自分の意見を発表できて、頼もしい限り。集中して積極的に取り組んでくれて、対馬の事を全国の方々に知ってもらい良い新聞ができたと思います。

【佐川町/高知県】 佐川町立尾川小中学校



土佐の美しい山里にある全校57名の小中一貫校。時には喧嘩をする事もあるけれど、いつも学年男女関係なく一緒に遊んでいる仲良しです。1年間かけて、大好きな尾川について楽しく学び、5・6年生生合同で3チームに分かれて、6年生が上手にリードして原稿を書き上げる事ができました。

地域コーディネーター：川合里奈(かわいりな)
うみやまかわ新聞は2年目となった尾川小中学校。6年生は、授業では5年生を上手にリードしてくれました。5年生は初めての新聞作り。しかもお兄さんお姉さん達と同じ学習で大変だったかもしれませんが、楽しくがんばってくれました。皆さんのお陰で私も楽しくお手伝いできました。お疲れ様でした！

【うるま市津堅島/沖縄県】 うるま市立津堅幼・小・中学校



私達の学校は、沖縄本島の中部、勝連半島の沖合に浮かぶ津堅島にあります。幼稚園・小学校・中学校合わせて24名の小さな学校です。自慢は、全員仲が良く、3年生以上は三線が弾ける事です。ハーリー大会や海洋体験、追い込み漁、サバニで島周りなど、楽しい行事がいっぱいです。

地域コーディネーター：喜久川麗(きくがわのぞみ)
あっという間の1年でした！！初めての地域コーディネーターでしたが、先輩(昨年度からの継続児童さん(〃〃))のリードと石嶺先生の指導のおかげでここまで来ました。タイトなスケジュールの中、いつも笑顔でがんばってくれた皆さんに感謝です！！ありがとうございました！！お疲れ様でした！！

【和泊町沖永良部島/鹿児島県】 和泊町立大城小学校



和泊町立大城小学校は、鹿児島県から南へ約500km離れた沖永良部島にあります。全校児童47名と少人数ではありますが、学年分け隔てなく仲良く元気に学校生活を送っています。その中で、今回、6年生10名がうみやまかわ新聞作りに取り組みました。

地域コーディネーター：古村英次郎(ふるむらえいじろう)
1年間、新聞作りをできて、本当に楽しかったです。限られた文字数でもとめる作業をやった事はとても頼もしく見えました。脚土を知り、興味を持ち将来の島を背負う人材になる事を願っています。本当にがんばりました。感謝！！

【屋久島町口永良部島/鹿児島県】 屋久島町立金岳小学校



金岳小学校は、口永良部島にある唯一の小学校で、全校児童4名のとて小さい学校です。新聞作りでは、6年生と4年生の3名が中心になって行いました。2年生もイラスト作成に参加し、みんなが一丸となって口永良部島の魅力を伝えようとしていました。

地域コーディネーター：貴船孫子(きぶねまごこ)
口永良部島は2015年(平成27年)に大きな噴火があり、7月の島外避難後に帰島しました。「元通りの生活」へ向け忙しかついている大人達を見ながら子ども達も自分達ができる事こそ新聞作りを感じたと思います。紙面を通じて「私達はこの口永良部島で元気にがんばっているよ」と伝えられれば幸いです。

北海道利尻町利尻島版

テーマ：利尻のひみつ
制作：利尻町青少年リーダーの会「若葉」（小学校4～6年生）



利尻の有名な海産物

利尻島を代表するこんぶやウニ、にしんなどの海産物について、紹介します。



利尻島は海産物が豊富な島です。その中でも、こんぶが有名です。利尻こんぶは、島の漁師さんが朝早くに漁に出てとったこんぶを、朝5時から干します。午後3時くらいまで干した後、こんぶを手作業で集めていきます。利尻こんぶは昔から、細く切っておやつとして食べたり、みそしるのダシに使ったりしています。夜、ねる前にこんぶの水につけて、翌朝、そのダシでみそしるを作ります。また、こんぶは食べるだけではなく、するめ・ゆずの葉・みかん・松の葉・半紙などと一緒にしめなわに付けて家のげん関にかざることもあるそうです。

同じく、朝、漁に出てとり、昼までにはとってきたウニのからを全て手作業でむきます。また、昔は、3月から5月いっぱいまで、縦あみ漁でにしん漁をしていましたが、今はしていません。にしんがたくさんどれていた時は、利尻の人だけでなく、青森県や秋田県などから島に働きに来る人が多くいて、たくさんの人でもとにもぎわっていました。これたにしんは、かずのこを取り、つけ物やそばに入れて食べていました。残った部分は、肥料として日常生活でも使われていました。みなさんも、ぜひ利尻に来て、にしんのことを学んだりウニやこんぶを食べたりしてみてください。

取材協力 西谷 隆治（にしやま さん、62才）
北海道利尻町出身、利尻島歴史研究者、京本誠郎

利尻の花について



利尻島にはたくさんの植物があり、この島でしか咲かない花も4種類あります。それは、リシリヒナゲシとリシリアザミ、ポタンキンバイ、リシリハタザオです。リシリヒナゲシは島の中央にある利尻山の9合目付近の岩地で7月初旬～中旬に咲きます。利尻島南部の海岸に育つリシリアザミは、8月中旬～下旬に咲きます。ポタンキンバイは7月上旬～中旬、リシリハタザオは7月～8月にそれぞれ開花します。中でもリシリヒナゲシとリシリアザミは、かん境省レッドデータの絶滅危惧1B類（EN）に指定されています。その



水のない利尻の川



（参考情報）
「利尻・礼文自然観察ガイド」（発行：山と溪谷社／共著：袖田美野里・佐藤雅彦、京本誠郎）

利尻島には川が全部で57個あります。ほとんどの川は水が流れていないため、「から川」と呼ばれています。しかし、雨が降ると山に降った雨水が流れ始めます。2016年（平成28年）9月6日、50年に一度の記録的な大雨が降り、利尻町と利尻富士町の全域に避難かん告が出されました。利尻町ではいろんな所で土砂くずれが発生し、町内の道路が全線通行止めという放送が流れました。でも山と海が近かったため、降った雨が川を通じて、海に流れて大きな災害にはなりませんでした。

万年雪を知っていますか？

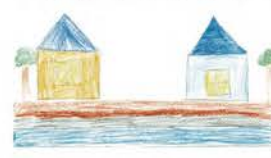


利尻山にある万年雪について紹介します。

利尻島の中心には利尻山があります。利尻山の中心には、万年雪という不思議な雪があります。万年雪は一年を通して残っている雪のことで、利尻山の南側の尾根にあります。利尻山の標高500メートル付近まで車で移動し、そこから歩いて20分くらいの場所で見ることが出来ます。大きな谷にあり、ハイキングを楽しみながら行くことができます。

なぜ万年雪ができるかというと、島の西側にある海からふく風がとても強く、島の東側に雪がたくさん飛ばされて、利尻山の尾根に雪がたまるからです。利尻山の万年雪は本州の山にあるものに比べて、簡単に見に行くことができるので、観光スポットにもなっています。万年雪を見に行く人の中には、かき氷のシロップを持参して万年雪をかき氷にして食べる人もいます。ぜひ、みなさんも来てみてください。

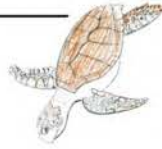
取材協力 北島 大（きたしま さん、41才）
利尻町出身、環境整備課上下水道係長、京本誠郎



利尻の水のひみつ

千葉県いすみ市版

テーマ：明るい未来を咲くいすみ市
制作：いすみ市立太東小学校 6年生



アカウミガメの赤ちゃんは、卵からふ化しても、そのほとんどが鳥やカニ、魚などに食べられ、100個産卵しても数ひきほどしか生きられません。いすみ市の浜にもアカウミガメが上陸して産卵をします。

アカウミガメの一生



アカウミガメはいすみ市の浜に産卵しに来ます。いすみ市の特産品であるカニやエビ、貝などがアカウミガメのえさになるので、この場所に産卵をしに来るそうです。アカウミガメはアメリカから沖縄、九州、四国、そしていすみ市にも上陸して産卵をします。日本に初めてアカウミガメが産卵しに来たのは、とてもとても大昔、日本にまだ人間がいなかったころです。

アカウミガメの産卵は次のように行われています。まず、海から真つすく浜に上がっていき、砂に身体をうめて穴をほります。50センチメートルもほることもあるそうです。穴をほるとピンポン球くらいの大きさの卵を100〜140個産みます。産み終わるとそこに砂をかぶせて、親は海に真つすく帰ります。



その後、約2カ月でアカウミガメの赤ちゃんが産まれます。赤ちゃんは産まれると真つすく海に帰ります。でも、大きくなるまでには鳥やカニ、魚などたくさん敵が待っています。多くのぎせいの中で数ひきだけ生き残るのがウミガメの世界なのです。そんな親ガメと子ガメは海の中でぐう然会うかもしれません。しかし、アカウミガメ達はおたがいが親子なのか分かりません。アカウミガメは家族を知らずに生きていくのです。人間ではありえないことがアカウミガメ達にとって普通のことなのです。そんなアカウミガメのために私達ができることは、アカウミガメの産卵のじやまをしないこと。それが家族のいる私達にとって一番できることじゃないかと思っています。

海の中の生き物を支えるカジメ



いすみ市の沿岸では「カジメ」という海そうが減少しています。その原因について紹介します。

カジメは、水深5〜20メートルくらいの水がきれいな場所に住んでいる海そうで、コンブの仲間です。体長は約2メートルになり、寿命は長いもので5年になります。カジメには、光合成をして酸素を作る他、海中の養分を吸収して赤潮を防ぐなど、海をきれいにしてくれる役割があります。取材した海の博物館の菊地則雄さんによると、いすみ市沿岸はカジメがたくさん

葛飾北斎にえいきょうをあたたえた波の伊八

いすみ市に彫刻を残した波の伊八。伊八はどんな人だったのか、いすみ市にある飯縄寺へ取材に行きました。



波の伊八は鴨川市の船職人の家に生まれ、本名を志伊八郎信由といいます。まじめで物事を計画的に考える性格でした。伊八は父のえいきょうを受けて彫刻を始め、波の彫刻を得意としました。千葉県いすみ市にある飯縄寺

いる日本有数の場所だそうですが、最近では減少傾向にあります。なぜ、カジメは減少しているのでしょうか。それは海水が暖かくなってカジメをはじめとした海そうが弱ったり、ウニや魚などが海そうを食べてしまったり焼けと呼ばれる現象などが原因です。いすみ市をふくむ房総半島などでは、カジメが住みやすい魚礁ブロックを海に入れたり、いそ焼けの原因となるウニをとったりしてカジメを守る取り組みをしています。人間にとっても魚にとっても、カジメを守っていくことは重要なことです。



取材協力：菊地則雄さん（いすみ市立中央博物館館長兼海の博物館館長）

には伊八がほった波の彫刻があります。その彫刻をよく見ると、左の方の波はおだやかで右の方の波はあらあらしく、まるで本物の波を見ているようです。波の伊八の彫刻は、特に北斎の「神奈川沖浪裏」と構図が似ています。ぜひ波の伊八のすばらしい彫刻を見に来てください。

取材協力：村田浩田さん（飯縄寺十九世住持）

長年続く上総十二社祭り

807年（大同2年）から続く「上総十二社祭り」について紹介します。

上総十二社祭りは、いすみ市岬町椎木地区にある玉崎神社が創建された807年（大同2年）に始まりました。毎年9月に行われるこの祭りは、「古事記」に出てくる豊玉姫命の子と玉依姫命から産まれた天武天皇の家族が、年に一度集まることに由来したお祭りです。見どころは、玉依姫命一族が釣ヶ崎海岸に上陸したことから始まった例祭と、帰ってきたみこしが釣ヶ



お祭りでかつみこしは、クギを使わず、装いよくにうるしや金だけを使うので大変です。今回、取材した千葉県いすみ市中原の永野利臣区長は、子どもも参加してもっと盛り上げてほしいと話していました。

取材協力：永野利臣さん（ながのとしおさん 55才）
千葉県いすみ市中原区長

いすみ鉄道と菜の花



いすみ鉄道の列車にはムミンの絵が描かれていて、鉄道を利用する乗客の心を和ませています。

いすみ鉄道は、千葉県大多喜町の上総中野駅から千葉県いすみ市の大原駅を結んでいます。いすみ鉄道の車体には黄色、緑色、青色の3色が使われていて、黄色は菜の花、緑色は山、青色は海を表しています。列車にはムミンが描

取材協力：吉野裕一さん（よしのゆういちさん 58才）
いすみ鉄道株式会社 鉄道部長

取材協力：長谷川信也さん（はせがわのぶのさん 61才）
いすみ鉄道株式会社 総務部長

また、わたしは、昔の車両が今も走っていることにびっくりしました。そして、人々を楽しませることができるといすみ鉄道が残っていることに良かったです。いすみ鉄道は、2009年（平成21年）10月から走っています。

東京都江戸川区葛西地区版

テーマ：ごみを減らしてバリアフリーの進んだ町に
制作：江戸川区立二之江第三小学校6年1組

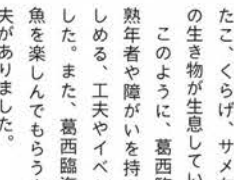
葛西臨海公園のバリアフリー、工夫の数々

東京都江戸川区にある葛西臨海公園には、体の不自由な方でも利用できる「だれでもトイレ」や、車いすの方でも通りやすくなるためのスロープなど、バリアフリーの工夫があります。

東京都江戸川区にある葛西臨海公園には、車いすの方でも通りやすいように設置されているスロープや、体の不自由な方でも利用できる「だれでもトイレ」など、さまざまなバリアフリーの工夫があります。

水族園にも工夫がありました。葛西臨海水族園では、展示されている魚の2、3倍もの魚を飼育しているの、いつも元気な魚を展示することが出来ます。また、良い姿を保つために、スパーで売られているより新鮮なえさをあたえることもあります。葛西臨海水族園に展示している魚の一部には、東京湾の生き物もいます。東京湾には貝、かに、えび、やどかり、いか、たこ、くらげ、サメなどたくさんの生き物が生息しています。

このように、葛西臨海公園には、熟年者や障がいを持った人でも楽しめる、工夫やイベントがあります。また、葛西臨海水族園には魚を楽しんでもらうさまざまな工夫がありました。



葛西臨海公園では公園の管理事務所が行うスイカの育成体験など、幼ち園生向けのイベントや、水仙祭りという熟年者向けのイベントなどさまざまなイベントがあります。他にも、民間団体が開催するイベントもあり、「葛西臨海たんけん隊」では、障がいのある方のためのプログラムを行っています。公園内のゴミは、ボランティアの方などが清そうしてくれているおかげで年々減ってきています。

葛西臨海公園(二之江第三小学校の児童が葛西臨海公園で生きもの勉強をしているところ。向こうに見えるのは東京ディズニーランド)。

葛西臨海公園(二之江第三小学校の児童が葛西臨海公園で生きもの勉強をしているところ。向こうに見えるのは東京ディズニーランド)。

葛西臨海公園(二之江第三小学校の児童が葛西臨海公園で生きもの勉強をしているところ。向こうに見えるのは東京ディズニーランド)。

思いやりをもっともらうには？

葛西地区にあるかい護施設や障がい者施設での過ごし方について紹介いたします。葛西地区にあるかい護施設では、かい護予防のためのトレーニングや芸術活動、カラオケなどを行っています。体が思うように動かない方や、熟年者の方が通う「デイサービス(通所かい護)」では、施設によって設備にちがいがあ、食事を中心としている施設や、運動・歩く練習を行うための、ジムのようになっています。



葛西地区にあるかい護施設や障がい者施設について紹介いたします。葛西地区にあるかい護施設では、かい護予防のためのトレーニングや芸術活動、カラオケなどを行っています。体が思うように動かない方や、熟年者の方が通う「デイサービス(通所かい護)」では、施設によって設備にちがいがあ、食事を中心としている施設や、運動・歩く練習を行うための、ジムのようになっています。

最後に私達からお願いがあります。それは、「どんな方にも思いやりをもっと過ごしてほしい」ということです。みなさんもハンディキャップを持っている方やみなさんと同じような生活を送れない方にも友達のように接してください。

私達は、東京都江戸川区葛西地区を流れる新川の楽しみ方や工夫について紹介します。

全国に広めよう！バリアフリー

新川には718本の桜が植えられている遊歩道があり、「新川千本桜」と呼ばれています。そこを歩くと桜を楽しむことができます。また、火の見やぐらという建物からは新川を一望できます。



新川の橋のバリアフリーや工夫

橋に段差があると熟年者などが転んでしまう危険があるので、なるべく段差をなくすようにしています。また、スロープのはばは2メートルあり、車いす同士がぶつからずに通れるようになっています。このような決まりに基づいて橋を造っています。

中倉さんと青柳さんに新川千本桜計画について教えていただきました。

中倉さん(51才)江戸川区土木部街路橋梁課設計係・係長
青柳さん(41才)江戸川区土木部街路橋梁課設計係・主査

今も昔も支えてくれた川

東京都江戸川区葛西地区の人々の暮らしを支えてきた川の一つ、新川の歴史について取材しました。



新川は江戸時代に徳川家康によって造られた人工の川です。新川が完成すると川の周りに家が建てられ、新川の水を使って生活をしていました。1949年(昭和24年)、キティ台風が関東地方に上陸し、江戸川区でも被害がありました。それをきっかけに、川の水があふれるのを防ぐために、堤防を造りました。現在では、川と人がふれ合える

ボランティア

心もかん境も美しくなる。東京都江戸川区葛西地区で暮らす私達にとってなじみのある「新川」。今と昔のゴミについて新川でボランティア活動をしている「新川げんき会」に取材に行きました。



新川げんき会の人たちは新川をいろいろな人たちに見てもらいたいという気持ちで活動しています。ゴミ拾いボランティアの活動のおかげで景観がきれいになり、昔と比べてゴミの量は減っています。空きかんや弁当の空箱などのゴミはまだあります。これからも、もっときれいな川になると良いと思います。

新川は人々の暮らしを支え、人々は川に感謝し、川を守ろうとゴミ拾いやボランティアなどを行っています。ことが分かりました。ほく達もこの新川を守っていきたいです。

新川は人々の暮らしを支え、人々は川に感謝し、川を守ろうとゴミ拾いやボランティアなどを行っています。ことが分かりました。ほく達もこの新川を守っていきたいです。

新川は人々の暮らしを支え、人々は川に感謝し、川を守ろうとゴミ拾いやボランティアなどを行っています。ことが分かりました。ほく達もこの新川を守っていきたいです。



東京湾の西干潟

たくさんの魚がいる「東京湾」の魚の種類や取り組みについて、海の生き物に詳しい風呂田利夫さんにお話を聞きました。

とうきょうわん

東京湾の自然



東京湾の絶滅危惧種・トビハゼ



風呂田利夫さん（左）と「しほさん（右）」
東京大学名誉教授

東京湾は、江戸時代のころは「食料をつくる海」と呼ばれていたそうですが、今では信じられない話です。葛西臨海公園を始め、近くにあるなぎさは、たくさんの親子連れが遊べる場所になっています。

多くの川が流れこむため、相模湾や伊豆半島、外房の海岸など淡水のえいきょうがない海に比べて3分の2くらい塩分濃度です。塩分が少ないので、河口の生き物が多くいて、東京湾に葛西臨海公園を造る時には、普通の海よりめずらしい生き物がたくさんいたそうです。

江戸時代のころから、東京湾のあたりは「江戸前」ともいわれ、昭和時代までは天然のハマグリがいたそうです。今は天然のハマグリは生息していませんが、別の場所から持ってきたハマグリが生息しています。ハマグリ以外にも、ボラやハゼ、マハゼなどの魚、ヤマトシジミや、アサリなどの貝、甲殻類、ゴカイ、サメなど色々な生き物が生息していて、ハゼは30種類くらいいるそうです。東京湾にサメがいるとおどろきですが、このサメは人をおそわないそうです。

江戸時代は、江戸時代のころは「食料をつくる海」と呼ばれていたそうですが、今では信じられない話です。葛西臨海公園を始め、近くにあるなぎさは、たくさんの親子連れが遊べる場所になっています。

東京都江戸川区葛西地区版

テーマ：人に親切なまち

制作：江戸川区立二之江第三小学校6年2組

新川地下駐車場は、東京都江戸川区が経営している公共の駐車場で、みんなが便利になるよう造られています。



新川地下駐車場の入り口。いつもたくさんの車が入ります。

安全性を考える 地下駐車場

東京都江戸川区を流れる新川の地下には、新川地下駐車場があります。1995年（平成7年）に着工し、4年間をかけた1999年（平成11年）6月にオープンしました。特に、民間の駐車場ではなく江戸川区が運営している公共の駐車場ということです。一時的に車を停めたい人のため、30分間は無料で利用できます。また、地しんなどに対しても安全に造られています。

地下に駐車場を造って良かったことは、町の景観をこわすことなく、周辺道路の違法駐車が減ったことです。

取材協力 江戸川区土木部保全課事業調整係

お年寄りと障がいのある人をお助け。福祉施設

東京都江戸川区には、約150の福祉施設があります。その中で、福祉施設の「ケアラウンジキョウエイ」と「希望の家」に行き、話をお聞きしました。

江戸川区には小学校が71校に対して熟年者のためのデイサービスが約150カ所もあります。小学校の2倍以上の福祉施設があり、熟年者に優しい町になっています。



左：障がいのある人が組み立てたレシゴム。右：ボランティアでケアラウンジキョウエイに熟年者をお呼びしました。

このように熟年者や障がいのある人も楽しく暮らせる町になっています。

「希望の家」には、約150の福祉施設があります。その中で、福祉施設の「ケアラウンジキョウエイ」と「希望の家」に行き、話をお聞きしました。

減らしてみよう 放置自転車

江戸川区は約15年前にはたくさんの放置自転車がありました。そのため、江戸川区は駅から200メートル以内に、地下を含めて約400カ所に駐輪場を造りました。そのうち約10カ所が地下にあつて、なぜ地下に造ったかという、地下に造ると地上に新しい建物が建てられるからです。駐輪場を造った結果、2001年（平成13年）には放置自転車が97.1パーセント減少して、放置率が0.66パーセントになりました。放置自転車が減ったことで、車いすの人やベビーカーも通りやすくなりました。地下駐輪場は機械式駐輪場「サイクルツリー」というもので、ICタグやカードを利用して自

古川親水公園は、日本で初めて造られた親水公園です。活は水などでよれ、みんなが使える公園として改修し、1973年（昭和48年）に完成しました。古川親水公園にはみんなが使いやすい

古川親水公園



段差が少なく、安全に配りよっています。四季で変わる景色を楽しめ、川の周りを歩くことができます。

ような工夫があります。1つ目はスロープを設置したことです。2つ目は段差をなくしたことです。このような工夫があることで、熟年者が安心して、朝のウォーキングや犬の散歩など楽しめるようになりました。

ICタグ(上)とカード(下)、サイクルツリーに使用します。

機械式駐輪場「サイクルツリー」というもので、ICタグやカードを利用して自



河野隆貴（うののたかき）さん（54才）
江戸川区土木部施設管理課駐輪対策係、係長

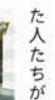


左：駐輪場完成前 右：駐輪場完成後

たくさん人の駐輪場ができたことにより、江戸川区の放置自転車が激減して江戸川区の道がきれいになりました。



中倉慎司（なかぐらしんじ）さん（51才）
江戸川区土木部施設管理課駐輪対策係、係長



青柳明（あおやけあきら）さん（41才）
江戸川区土木部施設管理課駐輪対策係、主任

山梨県北杜市版

テーマ：山梨水明の王国、北杜
制作：うみやまかわ新聞編集部北杜市支局（小学校4・5年生）

愛され続けている八ヶ岳



北杜市の人たちはきれいな八ヶ岳をよりきれいにしようと、管理や整備をしています。八ヶ岳はなぜ北杜市の人たちに愛されているのでしょうか。そのわけについて紹介します。

八ヶ岳は、実際は8つ以上のいくつもの山々が連なっています。主な山は天女山、三ツ頭山、権現岳、牛首山、赤岳、横岳などの山があり、最も標高の高い山は赤岳（2899メートル）です。

八ヶ岳の植物や動物について紹介します。日本では八ヶ岳にしかいない「ヒナリンドウ」という植物があります。ヒナリンドウは7月～8月にかけて白い花が咲ききれいです。しかし、今ではとても数が少なくなっています。かん境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠB類（EN）に指定されている「ツクモグサ」は、見られたらラッキーという草で、八ヶ岳で発見されました。他にも八ヶ岳の森には「ダケカンパ」「シラカンパ」「ヤエガワカ

ンバ」という3種類の木が生えています。この3種類は生態のちがいがから成長に適した場所があり、一緒に生えている森は少ないのでとても珍しいそうです。また、八ヶ岳の名前が付いた草もあるそうです。動物では天然記念物に指定されているヤマネや特別天然記念物に指定されているニホンカモシカが生息しています。冬になると空気がすみ、きれいな青空になって「八ヶ岳ブルー」という空と雪のきれいな組み合わせを見ることができま

す。今回、お話をうかがった山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでは、観光に訪れる人のために、かん境を整備しているそうです。また、坂道が多く自転車やマラソンをする人にも人気です。このように、めずらしい植物や動物に出会える美しい八ヶ岳だから人々に愛されているのです。



取材協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター、インタビュー：本田 眞人さん（45歳）

水にめぐまれている北杜市

山梨県北杜市は山に囲まれ、きれいな水が多く、かん境省が選定する「名水百選」(※1)や「平成の名水百選」(※2)にも選ばれている所があります。今回は、そんな北杜市の水の中から、「サントリー南アルプスの天然水」について紹介します。

全国的にも有名な「サントリー南アルプスの天然水」は、山梨県北杜市白州町にある「サントリー天然水南アルプス白州工場」で地下深くから天然水をくんで、殺菌や検査、ボトルリング、箱づめをして、山梨県だけでなく全国に出荷されています。白州町の水はこう度(※3)約30のなん水で飲みやすく、すっきりとキレイがあり、さわやかな清りよ

う感が持ちようだそう。白州町をふくむ南アルプスはユネスコエコパーク



(※4)に認定され、豊かな自然に囲まれているので、すっきりとした、きれいでおいしい天然水が採れます。北杜市には白州町の他にも、名水百選や平成の名水百選に選ばれている所があります。今回の取材で、北杜市はきれいでおいしい水にめぐまれていて、日本の中でもとてもすばらしい土地だということを知ることができました。

※1 1985年(昭和60年)当時のかん境庁(今のかん境省)が選定した全国各地の名水。湧き出し、地下深くにきれいな水を貯えること、そのため活動的な水質を維持していること、目的としている。

※2 2018年(平成30年)にかん境省が選定した全国各地の名水。湧き出し、地下深くにきれいな水を貯えること、そのため活動的な水質を維持していること、目的としている。

※3 水1000ミリリットル中にあるカルシウムとマグネシウムの量を表した数値。数値が小さいほど口当たりが軽い水で、数値が大きいのとすっきりとした飲み心地を感じる水とされています。

※4 ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)によって始められた取り組み。日本では7地域が登録されていて、南アルプスユネスコエコパークは2014年(平成26年)6月12日に登録された。

取材協力：大木 忠孝さん(62歳) サントリー天然水南アルプス白州工場内係

北杜市の山から海に流れる川



北杜市には色々な川が流れています。その中の1つ「釜無川」という川をたどっていきくと、次第に富士川となり静岡県、を通じて駿河湾につながっています。

(参考情報)「釜無川」(発行：郷土出版社)「日本の川を歩く」(発行：家の光協会)著者：大塚高穂



日照時間日本一の北杜市明野町にあるひまわり畑について紹介します。

日照時間日本一の北杜市明野町のひまわり

明野町には約6ヘクタールのひまわり畑があり、約60万本のひまわりが植えられています。ひまわりは5月中旬から6月中旬ごろに種まきし、7月下旬から8月下旬の約1カ月間花を見ることが出来ます。ひまわりは、明野町が日照時間日本一ということを知ってもらうために植え始め、今年で25回目になります。このひまわり畑は映画にも登場しています。

取材協力：根本 隆男さん(62歳) 一般社団法人北杜市観光協会・事務局長

国蝶オオムラサキってどんな蝶？

オオムラサキは北杜市にとって大切な蝶で、だれもが知っているくらい有名です。1957年(昭和32年)、日本昆虫学会によって国蝶に選ばれました。選ばれた理由は、姿の美しさと身近にいて親しまれていたからです。長坂町はクヌギ林やエノキが多く、冬は適度に雪が降りかん燥が少ないなど、オオムラサキが食料を確保しやすく、住みやすいかん境です。

オオムラサキは秋から春の約10カ月間、幼虫で、6月ごろにさなぎになり、7月には成虫になって産卵します。幼虫の時はメスとオスでちがいはありませんが、成虫になると、メスはオスより体が大きく羽は茶色になり、オスの羽の色は鮮やかな青で、お尻には目のような模様ができます。この模様は明るさを感じるセンサーなので、は？という説もあるそうです。

オオムラサキの卵や幼虫はエノキの葉の上で、成虫はクヌギの木の近くなどで見られます。成虫は晴れの日にひらひらと上空を舞うように飛びまわります。運が良ければ見られるかもしれませんが。

(参考情報)「オオムラサキセンター」ホームページ「運美及留子あつみ(ゆこ)さん(28才) 特定非営利活動法人自然とオオムラサキに親しむ会 学芸員



提供：北杜市

長野県木曽町版

テーマ：木曽の宝物を未来へつなげ！
制作：うみやまかわ新聞編集部木曽町支局（小学校5・6年生）

木曽町には、四季折々のたくさんのお祭りがあります。木曾でしか楽しめないお祭りを季節ごとに紹介します！

かがやきあふれる 木曽のお祭り!!

木曽町には四季折々のたくさんのお祭りがあります。春はお花見をしながら、郷土芸能を楽しめる「義仲の里さくらまつり」があります。また、木曾福島地区にある興禅寺のしだれ桜はとて有名で、夜はライトアップされ昼とはちがう表情の桜を見ることが出来ます。夏は「水無神社例大祭」があります。このお祭りでは、赤松でできた約400キログラムのおみこしを20人前後で担いで町内を回り、最後にはおみこしをこわしてしまいう「みこしまくり」が行われ、奇祭と呼ばれています。秋は山で採れたきのこやきのこじるをはん売する「きのこ祭り」が日義地区で行われます。冬は巨大なかまくらが並び、それでも遊べる「かまくら祭り」や、地域の人たちの手作りアイスキャンデルが置かれ、冬の寒い木曽町が暖かい光でいっぱいになる「雪灯りの散歩路」というお祭りがあります。

なかでも私が好きなお祭りは、水無神社例大祭と雪灯りの散歩路



みこしまくりの賑まくり

です。水無神社例大祭は屋台がたくさん出てにぎわいます。また、みこしが縦や横にまわられる（転がされる）「みこしまくり」は迫力があります。雪灯りの散歩路では、地域の人たちが出す屋台で食べられることや、たくさんの人達にぎわうのでとても好きなお祭りです。

どのお祭りもたくさんさんの魅力があり、木曾でしか楽しめないお祭りなので、これからも続いてほしいです。

取材協力
木村信一（まむらしんいちさん 57才）
信州木曾・水無神社こしこくり水交会 会長



雪灯りの散歩路の風景



木曽町の温泉

木曽町にはたくさんさんの温泉施設があり、今回は「信州きそふくしま代山温泉」「せせらぎの四季」「木曾古道ぬくもりの宿「駒の湯」」「ホテル木曾温泉」「御嶽明神温泉やまゆり荘」「二本木の湯」の5カ所へ取材に行きました。それぞれの温泉施設のくわしい情報は表にまとめているので、見てください。

ほくは、5カ所の温泉に入ってみて、それぞれの温泉の効能や泉質にちがいがあっておもしろいと思いました。また、その温泉施設で働く人たちが一人ひとり思いをこめて働いているのが分かりました。

温泉名	効能数	感想	営業時間 定休日	住所
信州きそふくしま代山温泉 「せせらぎの四季」	14	人気料理を飲んでもらったので、よかったです。	10:00~21:00 水曜日	木曾町新聞 3968-2
ホテル木曾温泉	19	露天風呂がとても温かかったです。	11:30~20:30 不定休	木曾町三巻 9-57
御嶽明神温泉 やまゆり荘	8	おんたけ山が見えてキレイだった。	10:00~19:00 火曜日	木曾町間田高原 西野6321-1211
「二本木の湯」	6	お風呂から物音が聞こえて見られてよかったです。	10:00~19:00 水曜日	木曾町新聞 6013-1
ぬくもりの宿 木曾古道 「駒の湯」	18	豪華な風呂があるなんてびっくりでした。	11:00~22:00 無休	木曾町福島 47-2

（参考）
「二本木の湯」パンフレット／木曾古道ぬくもりの宿「駒の湯」パンフレット／信州きそふくしま代山温泉「せせらぎの四季」パンフレット／ホテル木曾温泉「パレット」御嶽明神温泉やまゆり荘パンフレット／信州木曾の温泉パンフレット

取材協力
菅川大徳（さかざきおとよさん 69才）
「信州きそふくしま代山温泉」せせらぎの四季」店長

取材協力
深沢公一（ふかさわこういちさん 61才）
「合興会社」おとよと木曾温泉 代表社員

取材協力
原まゆみ（はらまゆみさん 65才）
「木曾古道ぬくもりの宿」駒の湯」従業員

取材協力
神原肇（かみはらしげさん 65才）
「57」御嶽明神温泉やまゆり荘 施設責任者

思い出いっぱい 桜の木!!

私達が通う木曾町立福島小学校の校庭には、たくさんさんの桜の木が植えられています。春になり桜が満開になると、近所の人達がお花見が集まり、学校ではお花見給食があります。用務員の奥谷正彦先生は、桜の木の周りに生えているコケ取り

や桜の木の消毒など、木の手入れをして下さっています。桜の木は私達小学生を始め、先生方や近所の人々に大切にされています。

2016年（平成28年）11月初旬、小学校のプールを町民プールとして建てかえる工事のため、4本の桜の木が切られてしまいました。長野県木曾青峰高等学校インテリア科の生徒たちは、その桜の木の存在を語りついでいきたいと、桜の木を使って小学生に届けたい思い出の品を製作しています。

取材協力
原晴美（はらあけみさん 18才）
長野県立木曾青峰高等学校インテリア科 工業クラブ

取材協力
和木孝太（わきこうたあさん 18才）
長野県立木曾青峰高等学校インテリア科 工業クラブ

取材協力
原隆はらたか（もとたかさん 62才）
木曾町町長、木曾水通り役員



木曾川沿いの町並み

木曾川の今と昔!!

木曾川は長野県から愛知県へ流れ、最後は伊勢湾に注ぎます。木曾町を始め、木曾川の流域に暮らす人々に生活で関わりのある川です。

昔は木曾の山で切った木を木曾川に流して、愛知県まで運ぶ「中乗さん」という職業がありました。運ばれた木は伊勢神宮を建てる時などに使われました。今では、木曾川の水は生活用水として中京けんに供給されています。他にも、木曾川のラフティングは地元の人や観光客に人気です。

昔も今も、木曾町や木曾川の流域にある地域は、木曾川を通して文化や生活、人のつながりを作ってきました。私達にとっても大切な川です。

「中山道」は東京の日本橋と京都の三条大橋を結ぶ街道で、木曾地方を通る部分は「木曾路」と呼ばれています。木曾町には海がありませんが、昔から中山道を通って、各地の海産物が木曾町に運ばれていました。その1つが「塩い」です。昔は冷蔵庫がなかったため、くらさないようにゆでたかの中に塩をつめて木曾まで運んでいました。

木曾町ならではの食文化もたくさんあります。5、6月には、木の葉に包んで蒸らす「朴葉餅」があります。他にも、



朴葉餅

中山道のど真ん中に位置する木曾町。東西から運ばれてきた食文化があり、木曾ならではの郷土食文化がたくさんあります。

未来へつなげ!! 木曾の食文化!!

木曾在来種の赤カブの葉っぱを乳酸菌で発酵させて作る「つけ物「すんき」」があります。木曾には海がなく、昔は塩が貴重でしたが、すんきは塩を使わずに作る事ができます。すんきは伝統的な食べ物として、今も冬になると作られています。木曾には中山道を通して外から入ってきた食文化や木曾独自の食文化があります。海と山のおいしさがつまった食文化を未来に残していきたいです。



すんきがつけられる所

取材協力
青木佳子（あおきよこさん 68才）
四季の食 農家

滋賀県近江八幡市沖島版

テーマ：びわ湖と沖島
制作：近江八幡市立沖島小学校3・6年生

日本最大のナマズ!!

ビワコオオナマズ

琵琶湖には、ここだけにしかない魚がいます。ビワコオオナマズはその1つで、大きさは1メートル以上あります。昔はたくさんいましたが、現在はとも少なくなくなってきています。



沖島は琵琶湖の中にあり、淡水湖に人が住んでいる、日本でただ1つの島です。琵琶湖には、ここだけにしかない特別な魚が10種類以上あります。代表的な魚はビワコオオナマズです。ビワコオオナマズは体長1メートル以上ある、日本最大のともめずらしいナマズです。

昔、ビワコオオナマズは1.8メートル程の大きさが普通に見られました。しかし、今は漁のあみにかからない程、数が減ってしまいました。その原因を漁師の奥村繁さんに聞いてみると、自然かん境や人間の生活の変化が関係しているのではないかといいました。かん境が変わったせいでは数が減った魚は、ビワコオオナマズだけではありません。イワトコナマズも数が減った魚の1つです。イワトコナマズはビワコオオナマズとちがいが、大きいくとも60センチメー

沖島小学校の校歌には「世界につづく琵琶の湖」という歌詞があります。その歌詞の意味について島の人に聞きました。

世界につづく琵琶の湖という歌詞があります。その歌詞の意味について島の人に聞きました。

沖島小学校の校歌には「世界につづく琵琶の湖」という歌詞があります。その歌詞の意味について島の人に聞きました。

沖島小学校の校歌には「世界につづく琵琶の湖」という歌詞があります。その歌詞の意味について島の人に聞きました。

沖島小学校の校歌には「世界につづく琵琶の湖」という歌詞があります。その歌詞の意味について島の人に聞きました。

人も固有種も困っている 外来魚問題



琵琶湖には外来魚がいます。外来魚は固有種を食べてしまうので、沖島では固有種が減ってしまい、問題になっています。

琵琶湖にはたくさん外来魚がいます。外来魚は元々、琵琶湖にいなかった魚のことです。主な外来魚はブラックバスやブルーギルです。外来魚には固有種を食べてしまうという大きな問題点があります。そのため、固有種が減ってしまい、いなくなる危険性があります。



奥村繁さん(69才) 沖島漁業協同組合 代表理事組合長



田川は大阪を通り海へとつながっています。このことから、琵琶湖が海、そして世界に通じていると考えられるのです。60年以上前から歌われている校歌が、今も歌いつがれていることをうれしく思いました。

琵琶湖には118本もの一級河川が流れこんでいますが、琵琶湖から流れる川は瀬田川1本だけです。瀬田川は大阪を通り海へとつながっています。このことから、琵琶湖が海、そして世界に通じていると考えられるのです。60年以上前から歌われている校歌が、今も歌いつがれていることをうれしく思いました。

琵琶湖には118本もの一級河川が流れこんでいますが、琵琶湖から流れる川は瀬田川1本だけです。瀬田川は大阪を通り海へとつながっています。このことから、琵琶湖が海、そして世界に通じていると考えられるのです。60年以上前から歌われている校歌が、今も歌いつがれていることをうれしく思いました。

琵琶湖には118本もの一級河川が流れこんでいますが、琵琶湖から流れる川は瀬田川1本だけです。瀬田川は大阪を通り海へとつながっています。このことから、琵琶湖が海、そして世界に通じていると考えられるのです。60年以上前から歌われている校歌が、今も歌いつがれていることをうれしく思いました。

そこで、1989年(平成元年)から滋賀県が外来魚の駆除を始めました。1年間で200トンぐらいの外来魚をつかまえています。その後、滋賀県漁業協同組合に連なると、つかまえた外来魚を加工する会社がある広島県まで運びます。しかし、全ての外来魚を駆除できるわけではありません。なぜなら、琵琶湖には推定400〜500トンの外来魚がいるからです。漁師の奥村繁さんも「琵琶湖から外来魚が消えることはない」とおっしゃっていました。

私達は、琵琶湖に近い沖島小学校に通っているので外来魚のことはよく知っていると思っていましたが、知らないことも多かったので取材して良かったなと思いました。

今年8月ごろ、琵琶湖を渡って来たイノシシに、沖島のさつまいもが3000本も食べられてしまいました

2016年(平成28年)8月7日、島で雑貨店を営んでいる富田ツヤ子さんの畑のさつまいも36本が、イノシシに食べられました。富田さんの畑がある辺りは千円畑と言います。昔、一区画(3メートル四方)が1000円だったことから、そう呼ばれています。千円畑の周りにはお家がないため、イノシシがよく出るそうです。元々、沖島にはイノシシはいません。島外から2キロメートルも琵琶湖を泳いで来たそうです。実際に泳いでいるイノシシを見た漁師さんもいるそうです。

イノシシはさつまいもなどの農作物を食べるだけでなく、土を深くほるので沖島の人には困っているそうです。富田さんは畑に電気が流れるさくを取りつけました。イノシシはさくを飛びこえられないので、さつまいもは食べられなくなったそうです。私はこれまでに3000本ものさつまいもをイノシシに食べられていたと聞いてびっくりしました。



富田ツヤ子(とみたつやこ)さん(80才) 雑貨店経営

昔から伝わる 元服の祭り



沖島には、1年を通していくつかの祭りがあります。その中で有名なのが、小正月の1月15日に近い日曜日に行う佐義長祭りです。この祭りの意味は2つあります。1つ目は、元服(※)をむかえる人の儀式です。元服をむかえる人は、「サンチヨー(佐義長)」と呼ばれる竹と笹とわらで飾られたものに火をつけて燃やするという役割があります。最近では、若い人がたくさん島の外に出てしまっ

たので、元服をむかえる人がいなくなり、自治会や宮番の人が燃やすようになりました。2つ目は1年間の豊作を願うというものです。燃えて、たおれた「サンチヨー」の角で大漁のうらないもするそうです。また、その火で古いお札やするめなども燃やします。実際に、数え年17才の時に元服をむかえ佐義長を経験した西居正吉さんは、「サンチヨーに火をつける時に元服以外の人に火を消されたりして大変だった」となつかしうに言っておられました。沖島のような島というかん境は、昔ながらの祭りを続けるのに適していると思います。



西居正吉(せいしゅうきち)さん(82才) 近江八幡市土師土倉

岡山県真庭市落合地区版

テーマ: Future of the project 目指せ落合のタイムトラベラー
制作: 真庭市立落合小学校6年生

私達が暮らしている岡山県真庭市落合地区には、かつてホタルがたくさん生息していましたが、今では数えられる程に減少しました。そこで私達はとりの北房地区へ取材に行き、落合地区にホタルを呼びこむために何をすればいいかまとめました。

輝け！ホタルと落合の未来！

真庭市北房地区はホタルの名所と言われています。北房ホタル保存会会長の南條保之さんにお話を聞き、私達が暮らす落合地区でもホタルを見るために必要なことを3つにまとめました。

1つ目は、ホタルの主なえさとなるカワニナを増やすことです。ホタルは成虫になるまでに約30びきのカワニナを食べるので、たくさんのカワニナが必要です。そのため、北房地区ではカワニナの養いよくを促していました。落合でも同様にカワニナの養いよくをして、えさを増やすことがホタルの数を増やす最大の近道です。

2つ目は、ホタルの生態を知り、人間の活動を改めることです。ホタルの幼虫は川の中にいますが、約9カ月経つと上陸してさなぎになります。地面から約1センチメートル下の地中でさなぎになるため、河川じきで草焼きなどをすると死んでしまいます。また、ホタルは車のヘッドライトや街灯等の人工の光をきらいます。そのため、北房地

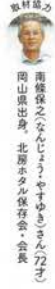


上: ホタル乱舞
下: 北房ホタル保存会取り組み「透光幕」

区ではガードレール下にしゃ光幕を設置したり、ホタルに優しい光を灯す常夜灯を設置したりしています。ホタルの生態を知り、悪いいきようをあたえないことが大切です。

3つ目は、地域の方々や行政の協力です。しゃ光幕や常夜灯の設置などには行政の協力が必要になると思います。また、地域の方々がホタルを守るための会を設立し、カワニナの養いよくや呼びかけ等の活動を行うことが必要だと思えます。

今は、ホタルを呼びこむのは夢のような話ですが、これらの3つの活動を続けられれば、いつか「ホタルの飛び交う町、落合」と呼ばれる日が来るのではないのでしょうか。



岡山県真庭市北房地区出身、北房ホタル保存会 会長

未来につながる注連山の木材

真庭市落合地区の未来をより良くするため、落合地区にある注連山の木の活用方法を紹介します。



注連山のたおれた木を有効に使った時のメリット

落合地区にある注連山には多くの木がたおれていますが、たおれた木の活用方法について、真庭市役所林業・バイオマス産業課の佐山宣夫さんにお話を聞きました。たおれた木の活用方法としてバイオマス発電があります。バイオマス発電とは木くずなどを燃料として燃やし、水を蒸発させた蒸気でタービンを回して発電する仕組みです。落合地区にバイオマス発電所を作ると良いことが多くあります。1つ目は、たおれた木を使って発電した電気を売ることでお金になります。2つ目は、たおれた木を使うことで山道が整備され山に登りやすくなります。3つ目は、頂上の見晴らしが良くなることです。

注連山の木材を有効に使い、未来の落合へつなげたいです。



佐山宣夫(さやまのぶお)さん(48才)
真庭市役所林業・バイオマス産業課 参事

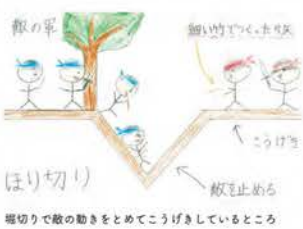
注連山は真庭市落合地区の中心にある高さ320メートルの小さな山で、戦国時代には「注連山城」という城があったと言われています。毛利氏、尼子氏、宇喜多氏、豊臣氏の軍が注連山城を取り合い、1日で城にいる軍勢が変わったそうです。城にいる軍は注連山にある細い竹を使って弓矢を作っていました。また、急なしゃ面を利用して、相手がせめて来られないようにした他、城の近くにはせめてくる相手を一旦止めさせるためのV字の堀切りがありました。

私達は地域の方から昔、真庭市落合地区にある注連山に城があったことを聞きました。そこで注連山の歴史をいろんな人を知ってもらいたいと思い、注連山の歴史を調べました。

伝えたい！注連山に昔存在した城



岡山県真庭市北房地区出身、八百屋屋を継ぎしめ山プロジェクトのメンバーとして活動している。



私達は、注連山を守る活動をされている「まにわ」しめ山プロジェクトのみなさんを見習い、注連山を守っていきたいと思います。そして、いろんな人に注連山を知ってもらいたいです。

ら城を守るためのにせもの城があったとも言われています。

真庭市落合地区を流れる備中川は旭川に合流し、瀬戸内海へと流れ出ます。ごみを瀬戸内海に流さないためにも落合地区から水をきれいにすることが大切です。

きれいにしよう備中川

真庭市阿口地区を源流とする備中川は長さ42キロメートルで、真庭市の各地区を流れて旭川に合流します。数年前の備中川は生活排水が原因できたなかつたのですが、2008年(平成20年)に鹿田地区にじょう化そうができたため、少しずつ水がきれいになっています。しかし、現在もごみが多く、水辺の葦に流れついています。



私たちは備中川にくわしい西本孝史さんと一緒に備中川のごみを拾い、バックテスト(※)で水質を調べました。テストの結果、備中川の水はきれいと思われる数値でしたが、ごみが多く捨てられていました。備中川にあるごみは最終的に瀬戸内海に流れついて水産物に害がおよぶため、上流部に位置する落合地区からごみを減らすことが大切です。



西本孝史(にしもと・たかし)さん(67才)
元ガードマン

※ 川の水質を調べる調査セット

注連山は私達が住んでいる真庭市落合地区の中心にある山です。注連山には88体の地蔵があると言われ、これらを周ると四国八十八か所参り(※)と同じ効果があると言われています。最近では、山に登る人は少なくなっていますが、私達は注連山を有名にしたいと思いい、どの登山ルートにどの地蔵があるかを調べてマップを作ろうと計画しました。注連山の登山ルートの整備や地蔵を盛り上げるための活動をしてい「まにわ」しめ山プロジェクト」の片岡孝文さんに協力していただき、一緒に注連山に登りました。ま

注連山地蔵めぐりマップ作り

た、注連山の事もくわしく教えていただき、「注連山地蔵めぐりマップ」が完成しました。このマップには注連山の登山ルートと現在見つかっている73体の地蔵の位置が書き込んであります。ぜひみなさんも落合に来て、このマップを片手に注連山に登ってみてください。そして、まだ見つかっていない残りの15体の地蔵を見つけてみてはいかがでしょうか？



片岡孝文(かたがわ・たかふみ)さん(41才)
作備印工業株式会社 経営 しめ山プロジェクトの活動をしていきます。

愛媛県上島町版

テーマ：上島町の未来を考えよう
制作：上島町立弓削小学校6年生
協力：上島町

海をこえて島に届く

「命の水」

上島町には高い山や大きな川がないため、長年水不足になやまされてきました。そこで、愛媛県と広島県が話し合い、広島県東広島市の水源から水を分けてもらえることになりました。そして、海の中に水道をひく工事が行われ、1985年(昭和60年)に上島町の各家庭に水が届くようになったのです。感謝の気持ちをこめて、上島町ではこの水を「友愛の水」と呼んでいます。

また、上島町では2008年(平成20年)から町内すべての地区で下水道が使えるようになりました。それまでは、使った水をそのまま海に流していたのですが、現在は、下水処理場で大きなゴミを取りのぞいた後、小さなよごれを微生物に食べてもらってきれいにしてから、海に流しています。水をきれいに海に返すことは、海や川、そして私達の暮らしを守るために必要なことです。



水源地の福富町の森に植樹をする活動(提供：上島町)

※1 1ヵ月あたり20トン使った場合、2016年4月1日現在、(出典：公益財団法人日本水道協会)
※2 上島町では、水源地の東広島市福富町の森に植樹をする活動を2000年(平成12年)から行っています。

上島町の水道料金はなんと全国で8番目に高いです！(※1)それは、広島県から海底を渡って水が届くからです。上島町に水が届くようになった歴史と水がなくて苦労した時代のことを取材しました。

「友愛の水」が届く前の様子を、弓削島の暮らしや文化に詳しく知りたい増岡真知子さんと小澤ヨシ子さんにうかがいました。昔は、井戸の水をつるべくみ上げていたので大変だったそうです。その水もあまりきれいではなく、飲み水にするにはふっとうさせてから使っていたそうです。少しの水を大切に使い回していたので、「命の水」と思っていたとお話してくれました。小澤さんは「水を分けてくれることに感謝し、水源地の山をきれいにする活動(※2)を手伝うことが大切」と教えてくださりました。例えば、山を守るために広葉樹を植えたり、水で苦労した歴史を伝えたりすることが、未来へ私たちができることだと思います。



一杯のおけの水を大切に使い回す

取材協力

- 梶田謙(ますだ・ゆずる)さん(27才) 上島町役場公営事業課・上下水係
- 久保泰嗣(くぼ・たいし)さん(40才) 上島町役場公営事業課・上下水係
- 徳岡誠(とくおか・まこと)さん(42才) 有限会社カミジママネジメント
- 小澤ヨシ子(おざわ・よしこ)さん(70才) ちゅうりっぷぐら〜ぶ・代表
- 増岡真知子(ますおか・まちこ)さん(68才) ゆげ女性塾

みんなを守る海の神様

かみりん



2016年(平成28年)、上島町にゆるキャラが誕生しました！上島町合べい10周年を記念して、「上島町にも Mascot キャラクターが欲しいねえ〜」という声が出てデザインを募集したところ、1229点もの作品が集まり、投票の結果、「かみりん」が選ばれました。かみりんは、代々、上島町を守っている海の神様で、海そうと桜のかみかざりがチャームポイント。誕生日は7月3日(※)です。

かみりんがいる上島町に来ればあなたも守ってもらえるかも！かみりんに守ってもらいたい人はだれでも、どこからでも、どんどん遊びに来てください！

※ 7月3日(ナミの日)

取材協力

中林宏徳(なかにし・ひろのり)さん(44才) 上島町商工会・経営指導員

上島町の弓削島、佐島、生名島、岩城島、魚島には、島四国という風習があります。伝統を守り伝える活動をしている、ゆげ女性塾の村上律子さんにお話をうかがいました。

つながる、しまのわ、島四国

弓削島では4月の第三日曜日が「島四国の日」です。島四国の日には島内に八十八カ所ある札所(※)で、地区や家庭によるお菓子や軽食のお接待をいただきますながら、お参りをして回ります。弓削島の住民の他、島外や外国から来た人達も参加しています。

四国には弘法大師ゆかりの八十八カ所の霊場がありますが、昔は瀬戸内海の島からは船で行くので、とても大変でした。そこで島内に八十八カ所の霊場を作り、そこを回ることで四国に行く代わりになしようと始まったそうです。島四国は瀬戸内海の他の島々にもある風習です。弓削島四国の始まりは、はつきりと分かりませんが、一番古い札所には「文化甲年(1804年)」と書かれています。島四国を守り伝えていく村上律子さんは「一年々、参加者が減っていますが、島四国は大切な交流の場」と言われていました。歴史ある島四国を私たちが守り残していきたいと思えました。ぜひ一度訪れてみてください。



上：札所 下：札所をまわってお参りする人たち(提供：上島町)

取材協力

村上律子(むらかみ・りつこ)さん(68才) ゆげ女性塾・代表

(※参考情報)「発行：弓削町(1986年)」

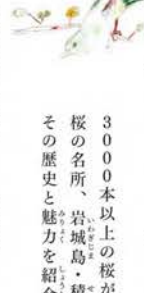
島の仕事 ~特産品を作って島おこし~

いわぎ島 岩城島のいわぎ物産センターは、1985年(昭和60年)に町と住民が地域活性を目的に一緒に作った株式会社で、島の特産品「青いレモン」などをはん売しています。当初は生のレモンのはん売から始まりましたが、今ではレモン果汁やレモンケーキなどの加工品も作って売り上げをのばしています。営業部主任の脇崇晃さんは「これからは商品をたくさん売って、地域にこうけんしたい」と話します。上島町岩城観光センター(リモーネ・プラザ)には、いわぎ物産センターの売店があり、おいしいものがいっぱいあるので、ぜひご利用ください。

- リモーネ・プラザ内売店 売上ランキング！
(2016年(平成28年)6月調べ)
- 1位 産直野菜
 - 2位 レモンケーキ
 - 3位 手作りケーキ
 - 4位 芋菓子
 - 5位 レモンポーク(※)

取材協力 脇崇晃(わき・たかてる)さん(41才) 株式会社いわぎ物産センター営業部・主任

未来へつなぐ、美しき三千本桜



3000本以上の桜が花さく、桜の名所、岩城島・積善山。その歴史と魅力を紹介しています。

上島町・岩城島にある積善山は、桜の名所として有名です。登山道沿いには3000本以上の桜が植えられ、「三千本桜」と呼ばれています。毎年、春に行われる「いわぎ桜まつり」は町内外の人でにぎわい、2016年(平成28年)は約1万4000人が訪れたそうです。

桜は今では4000本以上とも言われていますが、それはたまたま数本から始まりました。1945年(昭和20年)ごろ、零式艦上戦闘機(零戦)の燃料用に切った松の代わりに植えた桜が最初だそうです。戦後、積善山のふもとにも桜が植えられ、さらに卒業記念、やくばらい、かんれき記念などで住民に植樹されてきました。今の美しい桜は、こうした取り組みにより、近年は老木化やテングス病(※)で、弱っている木もあるようですが、地域のボランティアの他、町でも病気の予防などに取り組んでいます。積善山の桜は岩城島の人が育ててきた島の宝物です。美しい桜の山を未来に伝え、もっと観光にも来てもらおうと、たくさんの方に守られています。

取材協力

西本康典(にしもと・やすあき)さん(24才) 上島町役場産業振興課



山頂に続く桜の道(提供：上島町)



三千本桜の道

高知県佐川町尾川地区版

制作：佐川町立尾川小中学校5・6年生

忘れてはいけない!!

四十年前の記憶

40年前、高知県をおそった台風5号の災害について、尾川地区活性化協議会・会長の澤村重隆さんと、尾川地区集落支援員の澤村一己さんにお話をうかがいました。

1975年(昭和50年)8月17日、高知県を台風5号がおそいました。佐川町では午前8時から午後3時ごろまで、1時間に最大100ミリ、24時間で625ミリの大雨が降ったそうです。特に松ノ木地区は被害がひどく、家の中で土砂が流れこんでぎせいの者も出ました。町内の川ははんらんし、46カ所の橋が落ち、土砂くずれも起きました。松ノ木地区の道路も山が50メートル程くずれ、一時ご立状態になったというのです。停電、断水もしたため、ろくそくを使ったり、わき水を使ったりしていたと聞きまし。当時は避難所がなく、家がつぶされた人は近隣の人の助けでも



取材協力
尾川地区集落支援員

取材協力
尾川地区活性化協議会

澤村重隆(さわむら・しげたか)さん
尾川地区活性化協議会・会長

澤村一己(さわむら・かずのぶ)さん
尾川地区集落支援員

らったそうです。

被害は大きく、町内の約4分の1の家がしん水し、田畑750ヘクタールがかん水して、被害額は100億円をこえました。でも、2日後には400人以上が救援に来てくれたそうです。中学校のグラウンドでたき出しをしてくださったり、各地から物資がたくさん届き、田畑で育てていた作物もあったので食べ物には困らなかつたそうです。

この台風のえいきよで、川はぼがせまくなつたり、土砂がたい積りして深さが変わつたりして、川の形が変わりました。そのためオコセやウナギ、シロバヤ、ジバヤはいなくなり、たくさんいたホタルも、卵を産むやなぎの木が流されてしまい、少なくなりました。復旧するまでに4年もかかったそうです。

私達は、尾川地区にこんな大変な災害があつたことを、取材を通して初めて知りました。この災害を教訓に、防災について考え、地域の方と助け合い、命を守ってきたいと思ひました。

古畑観音堂

尾川地区に古くからある古畑観音堂を紹介しします。



私達の住んでいる尾川地区の古畑という所に観音堂があります。お堂の中には、馬頭観音がまつられていて、その周りには絵馬がたくさんかけられています。この観音堂は700年から800年ほど前のものだと言われています。古畑では、毎年旧暦1月28日にお祭りをしています。以前は、馬や牛が元気に育つように、馬や牛を連れてお参りに来ていたそうです。

観音様には伝説があります。昔、堂林という所にあつた観音様をどろ棒がぬすんで、持っていくこうとしました。と中でつかれて一休みした後、また観音様を持つとうすと、急に重くなり、持ち上げる

事ができなくなつたそうです。どろ棒は持つて帰るのをあきらめ、その場に置いていきました。それを村人が見つけ、今の古畑にまつたそうです。

観音様の周りにはある絵馬は競走馬が速く走れるように、また、子牛が安産で産まれてくるようにと願っているそうです。私達はそんな観音堂の歴史や言い伝えをこれからも伝えていきたいと思ひます。

取材協力
尾川地区活性化協議会



世界にほころ佐川の植物学者・牧野富太郎



牧野富太郎博士は、1862年(文久2年)に佐川町で生まれた植物学者です。1500種類以上の新しい植物を発見し、命名しました。私達は、佐川町上町地区にある「牧野富太郎ふるさと館」と「牧野公園」に取材に行きました。博士の生家あとに建てられたふるさと館では、博士の生がいや業績について知り、牧野公園では、博士が命名した植物を実際に見ることができました。牧野公園には私達が住む尾川地区でも自生している「トサジョウロウホトトギス」の黄色い花がきれいにさいていました。他にも「ワカキノサクラ」「シコクバイカオウレン」「オミナエシ」などたくさんの植物がありました。上町地区はきれいに整備されていて、これからも、牧野博士のことを色々な人に知ってもらいたいと思ひました。

(参考)「さかわの果」(発行：一般社団法人さかわ観光協会)

取材協力
尾川町役場チーム佐川推進課

戸根友子(とね・ともこ)さん
尾川町役場チーム佐川推進課
牧野公園リニューアル事業担当

取材協力
尾川町役場チーム佐川推進課

吉野敏(よしの・たけし)さん
尾川くろがねの会・理事長

守っていききたい尾川川

ホタルが飛び交い、夏には泳ぐこともできる尾川川を紹介しします。



尾川川は、ぼく達が通う尾川小学校の横を流れている川で、アユやアメゴも泳いでいるきれいな川です。ぼくは、夏休みに毎日のように川で遊んで過ごしていました。橋の上や岩から飛びこんだり、泳いだりしていました。この夏、ぼく達は、みんなで尾川川の上流にある折合淵に行きました。ここは、昔、地域の子とも達がよく遊んでいた場所です。げん想的で、水はとても冷たくすき通つていて、底が見えないくらい深かつたです。折合淵のおくにはウオーターズライダーのようにすべれる岩があり、飛びこめる場所もあつて楽しかつたです。

また、夏にはホタルが見られます。堂野々地区ではお祭りが行われます。

取材協力
尾川地区活性化協議会

取材協力
尾川地区集落支援員

取材協力
尾川地区活性化協議会

同村政史(おむら・まさひろ)さん
古畑地区自治会・会長

澤村重隆(さわむら・しげたか)さん
尾川地区活性化協議会・会長

澤村一己(さわむら・かずのぶ)さん
尾川地区集落支援員



大昔、尾川は海だった



佐川町尾川地区の西山には、今から約2億年前のジュラ紀の珊瑚礁からできていて「鳥ノ巣石灰岩」が分布しています。鳥ノ巣石灰岩は、1875年(明治8年)に発見したドイツのエドムント・ナウマン博士が、町内にある鳥ノ巣という地名から名付けました。西山に分布する鳥ノ巣石灰岩は珊瑚礁の海水の流れが激しい所でできる魚卵状石灰岩からできています。

私達は、2016年(平成28年)11月22日、西山に化石ほりに行き、そこで腕足類などの化石を採集しました。ここでは腕足類の他にサメの歯やアンモナイトなども発見されているそうです。

取材協力
尾川町立佐川地質館

澤村重隆(さわむら・しげたか)さん
尾川町立佐川地質館・館長



大分県日田市・上津江版

テーマ：自然からはじまる津江の輪
制作：日田市立津江小中学校6年生

わたしたちの身近にある

日田杉の元祖と日田杉を利用している株式会社トライ・ウッドについて説明します。

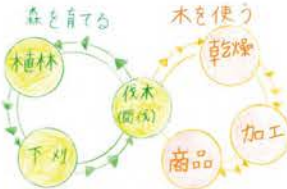
日田杉の元祖と トライ・ウッド

日田杉はその生産量や品質から全国的に有名です。日田市中津江村合瀬にある宮園津江神社の周囲や参道の両側に植えられた杉並木の中に日田杉の元祖と呼ばれる杉があります。この杉は最大樹高6.75メートル、最大樹高51.5メートル、樹齢300年以上の杉で、津江地方でさし木技術による植林が昔から行われていたことを証明するものとして、特に貴重な価値があります。この日田杉の元祖は、宮園津江神社が建て直された1669年(寛文9年)に山城守長谷部信安が植えたこととされています。1822年(文政5年)ごろから民家を造る材料に杉が使われるようになり、林業を営む会社が増えています。

現在、津江にある林業の会社の1つに「株式会社トライ・ウッド」があります。トライ・ウッドは木を切るだけでなく、植林をして下がりや間伐つを行い、育てた木を



加工し商品にするなど、森を育てるサイクルと木を使うサイクルを両立しています。木を切り出した後、植林をしなければ森がかわれていきます。しかし、トライ・ウッドでは植林をしているので、木が減ることはなく森が育ち、自然が保たれます。木を使うだけでなく、森を守る活動をしているトライ・ウッドは自然に優しい会社ということが分かります。



森を育てるサイクルと木を使うサイクル

川の源流

みなさんは川と山と海にはそれぞれ深いつながりがあることを知っていますか。まずは、山に雨が降ります。雨水は、山に生えている木の根や落葉でできた土のおかげで地中に貯められます。水がしみこむ土の中では、フルボ酸(※)が鉄と結びつき、フルボ酸鉄となります。フルボ酸鉄をふくんだ水は、やがてわき出て源流となり、大きな川へとつながっていきます。海にたどりつくころ、フルボ酸鉄の他、リンなど多くの栄養をふくんだ水になります。川から流れこむ水の栄養を海のプランクトンが取り、そのプランクトンを小さい魚が食べ、大きな魚が小さい魚を食べてというサイクルで、魚が育っているのです。



※ 森林や土壌の中に存在する有機酸の一つで、腐植土のように多く存在しています。

豊かな自然にふれあえる上津江フィッシングパーク



上津江フィッシングパークは、多くの人に自然の素晴らしさを感じてもらいたい、自然にふれ合ってもらおうと、1985年(昭和60年)にオープンしました。1年間に約2万3000人が上津江フィッシングパークを訪れます。

上津江フィッシングパークではニジマス、ヤマメといった魚をつつて食べる他、バーベキューをして楽しむこともできます。また、宿泊施設も21棟あり充実しています。自然に囲まれた場所に泊まることで、自然の美しさを感じることができます。

機会があったらみなさんも、上津江フィッシングパークに来て美しい自然にふれ合いながら楽しませてください。

津江の農業

津江の野菜の魅力を紹介しましょう。



標高が高い津江では寒暖の差が大きいという気候を生かして、良質の農作物がたくさんできます。農作物の中で、特に有名なのはわさびです。わさびは山の中で育てる林間わさびや清流で育てる沢わさびなどがあります。津江のわさびは日本で5番目の生産量をほこり、2015年(平成27年)の生産量は11.1トンでした。



水がきれいなため、からくてとてもおいしいです。オススメの食べ方はしょう油つけやかすづけです。

シヤクナゲに こめられた思い



上津江町には上津江しゃくなげ園があります。シヤクナゲは4月から5月にきれいな花を咲かせます。どうしてしゃくなげ園ができたのか、しゃくなげ園代表の上山さんに話をうかがいました。「私の父が、ぼっ探されるシヤクナゲを見て、なんでこんな美しい花を切るんだと思ったそう。それから自分の田んぼや庭をたがやしてシヤクナゲを少しずつ植えていき、今のしゃくなげ園があるのです(上山さん)。

シヤクナゲは常陸宮妃華子さまのお印になった花だと、テレビで紹介されたこともあり。とてもきれいな花なので、ぜひ見にきてください。

上山博隆(かやまひろゆき)さん63才、上津江しゃくなげ園代表

長崎県対馬市版

テーマ：上対馬と韓国の今と昔、そして未来へ
制作：対馬市立豊小学校5・6年生

対馬から韓国の釜山までの最短距離はおよそ49.5キロメートルです。私達は、上対馬と韓国の歴史的な関係が知りたいと思います。対馬歴史民俗資料館に勤める、藤原凛さんに話をうかがいました。

日本への玄関口、鰐浦



た、天気の良い日には韓国を見る
ことができます。

他にも鰐浦地区には「王仁博士顕彰碑」があります。伝承ですが、王仁博士は、古墳時代に当時朝鮮半島にあった百濟国から日本に渡来し、千字文と論語を伝えた人物だと言われています。その王仁博士の日本初上陸の地が鰐浦だったと言われているそうです。みなさんも、日本への玄関口、鰐浦に来てみてください。

※1 江戸幕府に国書をつたすために朝鮮国から来た使節団です。
※2 江戸時代、対馬の藩主に会うために朝鮮国から来た使節団です。

1991年(平成3年)には、朝浦の韓国展望所に「朝鮮国訳官使殉難の碑」が建立されました。今では多くの韓国観光客が訪れ礼拝しています。韓国展望所にある展望台やゲートには、朝鮮の古代建築様式が取り入れられています。ま



上：仁仁博士顕彰碑 下：朝鮮国訳官使殉難の碑

国境マラソンや 三宇田浜で楽しむ 韓国の観光客

2016年(平成28年)9月27日、国境マラソンが三宇田浜で行われ、韓国の観光客もたくさん訪れていました。三宇田浜では毎年7月に国境マラソンが開催されています。日本からの観光客も多く訪れていて、韓国のマラソン大会は冬に開催されることが多いので、国境マラソンでは、たくさんの方に参加してもらいやすいという、他の大会が少ない7月に行うことになったそうです。今年で20回目をむかえた国境マラソンの参加者は、過去最多の



上対馬には、朝鮮やロシアなどの国々と歴史的なつながりがある史跡があります。今回は朝鮮半島との貿易の証拠が残る塔ノ首遺跡を紹介しよう。

朝鮮との貿易の証拠、塔ノ首遺跡

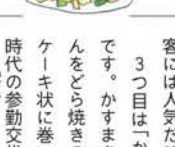
対馬市上対馬町古里地区にある塔ノ首遺跡は国の指定文化財(史跡名勝記念物)で1971年(昭和46年)に北朝鮮出身の金広和さんが発見したと言われています。この塔ノ首遺跡の石棺から、朝鮮式土器、九州で作られたと考えられる土器、広形銅矛(※)が出土しており、上対馬が九州、朝鮮と貿易していたということが分かっています。また、石棺の中から女性の歯が見つかり、上対馬には有力な女性がい



ぼくは、弥生時代からの交流が今後も続いて欲しいと思います。歴史ある貿易の地、上対馬町古里地区へぜひいらしてください。

対馬のソウルフード

対馬には、みんなに愛されているソウルフードがあります。1つ目は「上対馬とんちゃん」です。私達が暮らす上対馬では、豚肩ロースを特製のタレにつけて作ります。戦後、対馬にいた韓国人の方々がホルモンを材料に作っていたのが由来のようです。とんちゃんはバーベキューや焼肉では欠かせない料理となっています。2つ目は「ろくべえ」です。ろくべえは、サツマイモを加工して取り出した「せん」というでんぷんを「ろくべえ」という道具を使って、細くしてゆでたものです。江戸時代にサツマイモが対馬へ伝わり、そのいもを長い期間食べられるよう、たくさんの手間をかけてせんを作りました。ろくべえはサツマイモのみでできた健康食なので、韓国に人気の「鳴滝」



私たちが暮らす対馬には、たくさん郷土料理があります。今回は3つの郷土料理を紹介しよう。

3つ目は「かすまき」です。かすまきはこしあをを乾燥させたような生地でロールケーキ状に巻いたおかしです。江戸時代の参勤交代後、家中一同が島主への労いをこめてけんじしたものが、今では、韓国からの観光客に人気のおみやげになっています。対馬の中には、今回紹介した他にも、国境の島だから生まれた郷土料理があります。みなさんもぜひ、対馬に来て食べてみてください。いかがでしょうか。

上対馬とんちゃんについて取材
藤原凛(せいりん)さん 44才
対馬とんちゃん部 元部員
ろくべえについて取材
平岡美知枝(みちえ)さん 63才
対馬市食生活改善推進員
かすまきについて取材
内山達二(たつじ)さん 46才
山八製菓店 店主

観光スポット「鳴滝」

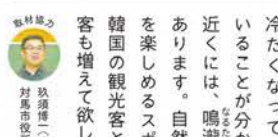
対馬市上対馬町須にある鳴滝自然公園。その中にある鳴滝は韓国人観光客に人気の場所です。

実際に鳴滝へ行ってみると、滝の下の方に近づくにつれて空気が冷たくなっていくことが分りました。鳴滝の近くには、鳴滝神社という神社もあります。自然が豊富で、森林浴を楽しめるスポットなので、私は韓国の観光客と同様に日本の観光客も増えて欲しいと思います。



対馬一の瀑布の滝、鳴滝の客員

2016年(平成28年)9月28日、対馬市役所上対馬振興部の玖須博一さんに鳴滝についてお話をうかがいました。鳴滝は落差が15メートルあり、対馬一の瀑布です。玖須さんから、韓国人観光客の中には健康目的の方もいて、そういう人たちは鳴滝で森林浴を楽しんでいることを教えてもらいました。



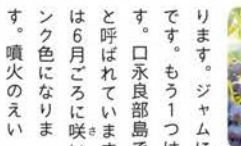
玖須博一(ひろかず)さん 50才
対馬市役所上対馬振興部地域振興課

鹿児島県屋久島町口永良部島版

テーマ：自然とともに生きる口永良部島
制作：屋久島町立金岳小学校4・6年生

火山島、自然の恵み口永良部島

大好きな口永良部島。自然と共に生きてきたからこそ分かる、火山島の魅力を伝えたい！



鹿児島県屋久島町の口永良部島には、新岳という高さ626メートルの火山があります。口永良部島はひょうたんの形をしています。昔から噴火をくり返したことで、現在の島の形になったそうです。新岳は火山なので噴火はしますが、良いところもいっぱいあります。

その1つが温泉です。島には「本村温泉」「湯向温泉」「西之湯温泉」「寝待温泉」という4つの温泉があります。それぞれ魅力がたくさんあります。本村温泉からは天気が良いと港がきれいに見えます。湯向温泉は湯の花がたくさんういています。西之湯温泉は海岸沿いがあり、波の音を聞きながら入れます。寝待温泉はあせもや傷によく効くと言われている温泉です。温泉に入るととても気持ちが良いので、ぜひ入ってみてください。

島の魅力は温泉の他にもあります。山にはシャシヤンボの木があります。冬に小つぶでむらさき色の実をつけ、食べるとあまずっぱくて口の中がむらさき色になります。ジャムにしてもおいしいです。もう1つはマルバサツキです。口永良部島ではエラブツツジと呼ばれています。エラブツツジは6月ごろに咲いて、山一面がピンク色になります。噴火のえいさようで木が枯れてしまいましたが、またピンク色に染まる山を見たいです。

噴火はするけれどぼくはこの島が大好きです。自然の中でいっぱい遊んで楽しいです。これから色々な人に口永良部島へ来てもらって、島の魅力を知ってもらいたいです。そして口永良部島のことをもっと好きになって欲しいです。

口永良部島には「ゴマウナギ」というウナギがいます。ゴマウナギは私達が普段食べているマウナギのような味ではなく、そんなにおいしくありません。大きいもので全長1メートル以上もあり、ビールのかんより

も太いそうです。口永良部島のゴマウナギはミズやネズミ、小魚を食べるなど、かなりの肉食系で、だいぶ前からの好物を川に投げこむと、高い確率でゴマウナギを見ることが出来ます。

川の中の底のどろをあみですくってみると、ゴマウナギのち魚がたくさんいました。赤ちゃんのころは透明ですが、大きくなると黒っぽいまだら模様になります。ゴマウナギは、昔、田んぼなどにもいたそうですが、今は川にしかいません。また、昔はいたマウナギがいなくなりました。ここ、口永良部島のゴマウナギは、島民にかわいがられ、とても愛されています。

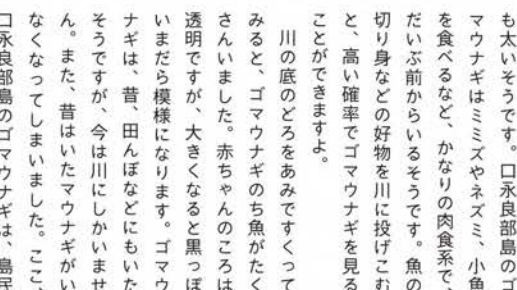
豊かな海に住む魚たち

口永良部島の海にはきれいな魚、おいしい魚など色々な魚がいます。魚だけではなく、きれいな珊瑚礁もあります。島のすぐ南を黒潮が通るので魚の種類が多いそうです。2014年(平成26年)1月、口永良部島の海で「エラブスマヤキ」という新種の魚が見つかりました。口永良部島で魚の研究をしていた木村祐貴さんによると、深海一本

ぶりという方法で、深さ400メートルにいる見たことのない魚が、つれ、「新種かな」と考えたそうです。エラブスマヤキは近い種類の魚と比べて目がとても大きいのが特徴です。口永良部島でとれて、焼いたスミミたいに黒かったので「エラブスマヤキ」と名付けられました。

豊かな自然から生み出される天然記念物

口永良部島には「エラブオオコウモリ」という天然記念物があります。エラブオオコウモリはクビワオオコウモリというコウモリ一種です。体重は400から500グラムで、羽を広げたら1メートルになります。羽の毛は柔らかいです。夜になると、窓の外からエラブオオコウモリの鳴き声が聞こえてくることもあります。エラブオオコウモリはガジュマル、モモ、イヌビワ、クワ、アコウなどの実を食べます。実が少ない時は葉も食べるそうです。



取材協力：後藤利幸(とごしゆき)さん(40才) 伊勢えび漁、一本づり漁など、約30年漁師として口永良部島の漁業を支えている。林信昭(はやしのぶあき)さん(70才) 2015年度(平成27年度)より14年間口永良部島本村区長を歴任した、野菜作りの達人。

取材協力：木村祐貴(きむらゆうき)さん(28才) 2016年度(平成28年度)より口永良部島本村区長、口永良部島ガイド協会のガイドとして島の自然や歴史に詳しい。水産総合研究所研究員、専門は魚類生態学。

取材協力：山口正行(やまぐちまさゆき)さん(48才) 口永良部島育ち、口永良部島消防分団長、PTA会長として活躍中。



偉大なる王、世の主

かつて、鹿児島県・沖永良部島を治めていた王様、世の主は今の沖縄県にあった北山王国と交易をしていました。

制作…和泊町立大城小学校6年生

鹿児島県和泊町沖永良部島版



取材協力 先住光演(あきひろ)さん(74歳) 和泊町歴史民俗資料館・館長

世の主は1400年ごろに沖永良部島を治めていた王様です。同じころ、琉球(今の沖縄県)は北山王国、中山王国、南山王国の3つに分かれていました。14、15世紀にかけて、世の主は北山王国と交易をして、中国のとう磁器を購入していました。そして、購入したとう磁器を貧しい百姓に分け与えていました。だから、島民からの信頼もとても厚かったそうです。

その後、北山は中山にほろぼされてしまいました。その時、中山から来た船を見て、世の主は戦いに来た船だと思いこんでしまいました。世の主は、島民を戦わせることはできないと切腹してしまいました。中山王国の船が来た港は「与和の浜」と言います。与和の浜がある古里地区の人たちは、毎年、浜をそうじしています。この沖永良部の偉大なる王様である世の主が持っていた島民への優しい思いをばく達も受けついでいかなければと思います。切腹したのは世の主と奥方、長男だけで長女と次男は沖永良部島の北にある徳之島へにげました。この沖永良部に二男の子孫が残っています。

沖永良部島は珊瑚礁が隆起してきた島で、島周辺の珊瑚礁に付く海そうを求めてたくさんのウミガメが集まります。島の周辺には、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの3種類が生息しており、「ウミガメニューボイント」という観光スポットでは、体長40センチメートルから60センチメートルくらいのウミガメが海そうを食べる姿を、満潮時には30頭も見ることができます。

沖永良部島はウミガメの産卵場所でもあり、例年、約250回ほど産卵します。島には浜が1100

沖永良部島では、テッポウユリとジャガイモの栽培が盛んに行われています。

ジャガイモの盛んな島

間冷蔵庫に入れ、その後土に植え、その花が咲きます。ジャガイモは「メークイン」や「ゴールド」などの品種が作られていて、沖永良部島で採れたジャガイモは「春のささやき」というブランド名が付けられています。ジャガイモの芽を切り、四つ切りにした種イモを植えて育てています。

ウミガメの実態とは?

沖永良部島のウミガメの生態についてせまります。

カ所あり、そのうちの7割ほどの浜で産卵が確認されています。ウミガメの産卵時期である4月下旬から7月下旬までの間、2週間に一度、古里地区にある与和の浜で観察会が開かれます。地域の方々が砂浜のそうじをしてきれいにしているから、ウミガメも産卵しに来ることができます。これからのウミガメが安心して産卵できる砂浜が残ってほしいです。

テッポウユリとジャガイモの栽培が盛んに行われています。

沖永良部島では、ジャガイモの栽培が盛んです。ジャガイモは約100年前から栽培されているそうです。初めは球根だけを商品として出荷していましたが、花も売れるというので、今では花も球根も出荷しています。ジャガイモは冬が暖かい沖永良部島の気候や赤土という島の土じょうが適しているため育てています。

次にユリとジャガイモの品種や栽培方法を紹介します。テッポウユリには「ひのもと」や「ジョージア」、最近では「プチホルン」という品種があります。球根を約60日



取材協力 櫻井志(しづ)さん(52歳) ジャガイモの種イモ



珊瑚の特ちょうや種類など珊瑚の秘密には、おどろくことばかりです。



珊瑚ってなあに?

部島では分かっているだけで20種類以上生息しています。珊瑚には多くの微生物がいて、酸素を排出しています。そのため、珊瑚は「海の森」と言われているそうです。沖永良部島の海には珊瑚がたくさんいるので海がきれいです。しかし、畑の土の流出などが原因で海の微生物がいなくなると、珊瑚が白くなる「白化現象」が起こり、昔より数が減ってきています。

珊瑚の保護活動として、「サンゴの再生・植え付けプロジェクト」があります。これは、折れた珊瑚を接着ざいで付けて、珊瑚を復活させる活動です。ぼく達は、実際にプロジェクトに参加して、折れた珊瑚でも生きていることを知り、珊瑚が増えてほしいです。



取材協力 東進(あきと)さん(71歳) ダイオウイシモチ(シロダイ)沖永良部代表

大切にしよう! 絶滅しかけた南の島の闘魚

闘魚の危機と保護する活動について説明します。

沖永良部島には「タイワンキンギョ」という魚がいます。島では「闘魚」と呼んでいます。その名の通り、メスをうばい合う時やなわ張り争いの時に戦う魚です。闘魚は「ラビリンス器官」と呼ばれる器官が体の中にあるため、エラ呼吸の他に肺呼吸もできます。

闘魚についてお話を聞いた朝戸武勝さんによると、減反政策によって、闘魚の住みかである田んぼが少なくなり絶滅しかけたそうです。朝戸さんは闘魚が絶滅しないために、ピオトープなど闘魚がはんによくできるかん境作りや島の小学校に闘魚を寄付する保護活動をしています。私達が通う大城小学校にも闘魚を寄付してくれました。これからも、ぼく達は闘魚を大切に、昔のようにたくさんの闘魚が見られるようにしたいです。



取材協力 朝戸武勝(あさと・たけかつ)さん(71歳) ファンダム監・代表

沖縄県うるま市津堅島版

テーマ：恵みがいっぱい豊かなビデオ島
制作：うるま市立津堅幼・小・中学校3・5年生

津堅島は周囲約8キロメートルの珊瑚礁に囲まれた島です。白い砂浜が島のあちこちにあります。美しいビーチがあります。その中でも、観光客がよく訪れるトゥマイ浜について取材しました。

白と青の天然ビーチ



トゥマイ浜は津堅島の西側にあり、港から徒歩15分で行ける人気の天然ビーチです。マリンスポーツインストラクターの源古康博さんに取材したところ、トゥマイ浜には、毎年、宿泊や日帰りの観光客が3000人くらい訪れるそうです。最近では、県外からの修学旅行生も訪れます。たくさんの方が訪れるトゥマイ浜の魅力を紹介します。

トゥマイ浜の魅力は、約1キロメートルにおよぶ広い砂浜です。これだけ広い天然のビーチは沖縄本島にもないそうです。トゥマイ浜ではジェットスキーやバナナボート、ピクニック、ウエイクボード、フライボート、シュノーケリングなどのマリンスポーツを体験できます。その中でも観光客に



一番人気があるのは熱帯魚や珊瑚礁を見られるシュノーケリングだそうです。私も、夏休み前にシュノーケリングを体験しました。熱帯魚がたくさんいてとてもきれいでした。

源古さんが仕事をされていてやりがいがあるのは、観光客が「きれいなビーチだね」「また来年も来るね」と言ってくれることで、仕事をしていた大変なことは、台風が来てビーチの砂がなくなるのだそうです。源古さんは「この何年かでビーチの砂の量が減ってきている」と言っていました。また、トゥマイ浜に遊びに来ていた観光客にインタビューしたところ、「白い砂がキレイ」「海がどうも「いろんなマリンスポーツが楽しめる」という声が多く聞かれました。きれいなビーチが続くようにゴミ拾いをしていきたいと思っています。

取材協力：源古康博さん(マリンインストラクター)

あまくておいしい津堅のいも



いもの栽培の仕方について、農家の新屋功さんに取材しました。また、いもほり体験もしました。

津堅島ではさつまいも、紅いもなどが栽培されています。いもの栽培方法は、まず、土を耕してウネを作り、30センチメートル間かくで種いもを植え、肥料や水をやりながら育てていきます。水を切らさないことが特に大切で、雨が降らない時は遠くにある貯水池で水をくんでくる必要があるので大変です。イモゾウムシやアリモドキ



ゾウムシなどいもにつく害虫は、く除しないとほぼ100パーセントの確率で実を食べてしまうので、一本一本の根っこに農薬をまきます。また、いもはつるのなかから根を張り出しますが、栄養が実だけにいくように、つるから根が出ないように、時々、苗を動かすことも大切だそうです。

4月から5月ごろに畑を耕し、収めは10月11月です。収めは体調と相談しながら1日5箱くらいいもをとって出荷します。大きいいもが出てきた時はとてもうれしいそうです。私たちが実際にいもほり体験をさせてもらいました。スコップで土をほって収めしますが、スコップに力を入れてやらないとほれませんでした。大きいいもがとれて、すごくうれしかったです。

取材協力：新屋功さん(農家)

「ホートウガー」



取材協力：緑間幸子さん(86歳)

子宝にめぐまれたあなたに朗報！大変ご利益のある名所を紹介します。

津堅島の西側の海のすぐそばに、昔、はとが見つけたと言われる「ホートウガー」というわき水があります。現在では島の名所の一つになっています。なぜ名所になっているかと言うと、子宝にめぐまれるというパワースポットだからです。そこには男女が抱き合っているような鍾乳石があり、子孫繁栄の神として崇拝されています。島の人たちに取材してみたところ、子宝にめぐまれた夫婦が心をこめて祈願すると、子宝にめぐまれたという話がよく聞かれました。

取材協力：津堅島の記録(発行・編集：沖縄自分史センター)

もずくといいば津堅島!! もずくの生産量は沖縄県が日本全体の約99パーセントをしめていて、そのうち、半分以上が勝連漁業協同組合、津堅産です。



もずくの養殖は、8月ごろから始まり、約9カ月後にポンプで吸い取って収められます。もずくの育て方は、まず、タンク内で種付けをします。苗床であみに種をつけて、約5ミリメートルまで成長させます。種付けしたあみは15枚くらいで1セットになっています。その後、あみを一枚ずつつけて本張りとして、水深2〜10メートルの海中にあみをして育てます。1日に100枚くらいあみを張っていく作業は、体力的に大変だといまします。そのままにいたら、魚に食べられるので、周りにあみを張って保護しているそうです。その後成長したもずくは、少ない日で1日に500キログラム、多い日には3トンほどを収め、全体で年間90トンほどの量を出荷するそうです。大漁の時はとてもうれしいそうです。逆に、天候に左右される仕事なので、台風や高波で被害を受けた時は大変だそうです。特に沖縄は6月〜11月の間によく台風が来るので、ロープであみをしばったりして対策も行っています。

取材協力：青良直光さん(勝連漁業協同組合)

心が1つになるお祭り「マータンコー」

毎年、旧暦11月14日に行われるマータンコーは、島の人たちが健康や豊作、大漁を祈り、心を1つにするお祭りです。およそ145年前ごろから始まったと言われていて、区長の玉城盛哲さんは、「人は一人では生きていけない。和やさずなを大切に、楽しみも悲しみも全員で分かち合おう」という考えを持ってこの祭りを続けていきたいそうです。



取材協力：玉城盛哲さん(区長)

女性のみで行われる「ウシ(ス)デーク」

ウシ(ス)デークは、毎年、旧暦8月11日に五穀豊稔を祈願して島の女性のみでおどるお祭りです。当日は、広場で島の神様におどりを奉納します。沖縄本島や周辺離島で行われています。女性達が円になって日暮れまでおどる津堅島では「津堅(チキン)ウシデーク」とも呼ばれているそうです。私達、小・中学生も参加しました。



取材協力：緑間幸子さん(86歳)